

PRINTING MUSEUM, TOKYO
ANNUAL REPORT
2023

ごあいさつ



印刷博物館館長
金子真吾

印刷博物館は今年で開館してから23年目を迎えます。20周年の節目の年には常設展を全面的にリニューアルいたしました。その後新型コロナウイルス感染症のために多くの制約を受けながらの運営を余儀なくされました。しかし徹底した感染対策を実施して活動を続け、現在ではコロナ禍前の約8割の来館者をお迎えするまでに回復いたしました。今後も感染症への対策は継続いたしますが、ウィズ・コロナの対応でコロナ禍前の活動状態が早く戻るように努力を続けてまいります。

2022年度の活動では、3つの大きな出来事がありましたのでそのことを述べたいと思います。

1つ目は9月から開催した企画展「地図と印刷」です。この展覧会は当館のリニューアル後の2回目の企画展ですが、未だにコロナ禍の影響を受ける中にもかかわらず、13,000名を超える方々にご来館いただきました。これはコロナ禍以前の来館者数となり、久しぶりに盛況な企画展となりました。地図がいつ頃から印刷物として使われたのか、またどのような変遷で現在の形態になったのか、身近ながら意外と知らないことが多い印刷物ということもあり、さまざまな分野の方々に興味を持っていただきました。

2つ目は、11月にドイツのゲーテンベルク博物館とヴァチカン市国のヴァチカン教皇庁図書館へ、館長就任後初めて訪問できたことです。ゲーテンベルク博物館からはゼルター館長、ゲーテ副館長の出迎えを受け、印刷博物館との協力に関する覚書を締結いたしました。ゲーテンベルク博物館とは、今後企画展の開催や展示協力の実現に向けて、具体的な活動を進めていく約束をいたしました。また、ヴァチカン教皇庁図書館では、尚書長であるザニ二大司教をはじめパジーニ副館長、ヤンツ副館長にお会いすることができ、当館で開催した2回の企画展への協力に感謝し、引き続き次回の企画展ならびに文化的な協力活動について意見交換をいたしました。いずれの館もコロナ禍で交流が途絶えていただけに大きな成果となりました。

そして3つ目は、大学を中心とした教育機関との連携が活発化したことです。これまでコロナ禍の2年間は学校からの団体見学をはじめ、個別の学生の見学者も激減していたのですが、2022年度に入り、多くの大学から特別講義など授業の一環として印刷博物館への見学や講義の依頼が届き、22年度だけでも100校以上の学校への協力が実現いたしました。いずれ団体見学も積極的に受け入れる時期が来ることと思いますが、オンラインだけではなく、実際に印刷博物館のコンテンツを見ることで印刷の歴史や技術、文化についてより知識を深めたいと願っています。

2023年度はコロナ禍に配慮しつつ、博物館活動としての印刷資料の収集・保存、収蔵品の調査や展示活動はもとより、講演会やイベントなどの情報発信にもより力を入れていきたいと考えておりますので、引き続き印刷博物館の活動へのさらなるご指導とご鞭撻をお願いいたします。

金子真吾

2023年7月

Greeting

Printing Museum, Tokyo, is celebrating its 23rd anniversary in 2023. We overhauled the general exhibition in the year of our 20th anniversary, but after that was completed, the Museum had to deal with restrictions due to COVID-19. Nevertheless, we continued our activities by thoroughly implementing infection control measures, and the number of visitors has recovered to about 80% of the pre-pandemic level. While keeping the infection control measures in place, we will continue to make efforts to coexist with COVID-19 and return to the pre-COVID situation as early as possible.

Last fiscal year, the Museum saw three significant events.

The first was *MAP and PRINTING*, the temporary exhibition that started in September. It was the second temporary exhibition held after the Museum was renovated, and welcomed more than 13,000 visitors despite the impact of the pandemic. This number of visitors reached the pre-COVID level, and signified the success of the exhibition amid the pandemic. Although maps are printed materials that are very common in our lives, we do not know much about them, such as when they emerged as printed materials and how they looked in the past. Hence, this exhibition was found intriguing by people from diverse fields.

For the second event, in November I visited the Gutenberg Museum in Germany and the Vatican Apostolic Library in Vatican City for the first time since I assumed the post of Director of the Museum. Welcomed by Director Dr. Sölter and Deputy Director Dr. Göthe at the Gutenberg Museum, I signed a memorandum of understanding on cooperation between the Gutenberg Museum and Printing Museum, Tokyo. The two museums have pledged to take concrete actions to hold temporary exhibitions and assist with each other's exhibitions in the future. At the Vatican Apostolic Library, I met Archbishop Zani, the Library's Archivist and Librarian, Prefect Pasini and Deputy Prefect Janz, thanked the Library for their cooperation in Printing Museum Tokyo's two temporary exhibitions and exchanged opinions on upcoming temporary exhibitions and cultural cooperation. My visit to these two institutions was significant in that it led to the resumption of the exchanges that had been paused due to COVID-19.

The third significant event for the Museum was the resumption of the partnership with universities and other educational institutions. Amid the pandemic of the past two years, school trips and individual student visits fell significantly. Then in FY2022, many universities asked the Museum to accept student visits or give lectures on campuses as part of their classes. We accepted such requests from more than 100 universities. We are hoping to welcome more school trips in the near future, and we want students to increase their knowledge of the history, technology and culture of printing by actually visiting Printing Museum, Tokyo, as opposed to only browsing the content online.

In addition to collecting and storing printed materials, investigating printing culture, and exhibiting collections, we will focus on sharing knowledge by hosting lectures and organizing events in FY2023, paying attention to the situation of the pandemic. We ask for your ongoing guidance and encouragement as supporters of the activities of Printing Museum, Tokyo.

July 2023

Shingo Kaneko, Director
Printing Museum, Tokyo

目次

- 01 ごあいさつ
- 04 2022年から2023年のあゆみ

印刷文化学の実践

- 06 印刷文化学のグランドデザイン

① 深める

- 08 企画展示「地図と印刷」
- 12 ギャラリー展示 | グラフィックトライアル2022 -CHANGE-
- 14 ギャラリー展示 | 知ってるようで知らない! 本のいろいろ
- 16 ギャラリー展示 | 現代日本のパッケージ2022
- 18 ギャラリー展示 | 世界のブックデザイン2021-22
- 20 常設展
- 21 テーマ活動
- 22 活版マイスター制度

② 伝える

- 23 展覧会関連プログラム
- 25 印刷文化の伝承プログラム
- 28 ギャラリートーク
- 29 体験型レクチャー

③ つながる

- 30 第3回印刷文化学会議
- 32 タイポグラフィ研究

2022年度報告

- 34 印刷工房
- 35 夏休み体験教室
- 36 地域との交流活動
- 38 他館との連携活動
- 41 保存・修復活動
- 42 ライブラリー報告
- 43 印刷博物館発行物
- 44 2022年度各種データ
- 48 主なメディア掲載
- 50 トピックス
- 52 VRシアター / ミュージアムショップ

基本情報

- 54 アンケート報告
- 56 利用案内
- 57 関連施設
- 58 組織・施設概要
- 59 設立趣旨・特徴

2022年から2023年のあゆみ

2022年	4月	19日	★ミニ展示「マインツ・インパルス」開催(～7月24日) グーテンベルクの偉業をユネスコ無形文化遺産登録のための署名活動に日本国内推進窓口として協力 ■多摩美術大学「印刷概論」授業協力(オンライン) (26日、5月10日、17日)	11月	11日	■青山学院大学出前授業開催	
		23日	★ギャラリー「グラフィックトライアル2022 -CHANGE-」 展開催(～7月24日)		13日	■浜松市立中央図書館読書推進講演会にて講演協力	
		30日	■常設展オンライン解説「印刷の日本史II」開催		14日	■相模女子大学「出版文化史」出前授業開催	
5月		15日	■「マインツ・インパルス」オンライン解説開催 (6月16日、7月14日)	15日	15日	■人間文化研究機構コミュニケーター研修協力 (～16日)	
		22日	■インスタグラムライブ「アダナ印刷機」開催		16日	■インターネット番組「ニコニコ美術館」にて 「地図と印刷」展生配信	
		25日	■オンラインショップ開設		23日	■紙の博物館合同ワークショップ「漉く・刷る 名刺」 開催(27日)	
		27日	■第78回産業文化博物館コンソーシアム開催 (オンライン) 於:ガスミュージアム		25日	■第80回産業文化博物館コンソーシアム開催 (リアル・オンライン) 於:印刷博物館	
6月		3日	■実践女子大学キャリアプランニング授業協力 (4日、7月1日、8日)	30日	30日	■金子館長グーテンベルクミュージアム訪問、 活動協力に関する覚書締結	
		11日	■武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科授業協力 (オンライン)		12月	2日	■金子館長ヴァチカン教皇庁図書館訪問
		17日	■東京大学「文化資源としての書物」出前授業 (オンライン)			6日	■静岡文化芸術大学授業(13日、20日)
		22日	■立教大学「デジタル人文学への取組み」出前授業 開催			10日	★ギャラリー「世界のブックデザイン2021-22」展開催 (～2023年4月9日)
		28日	■筑波大学附属桐が丘特別支援学校出前授業開催			15日	■文京ミュージズフェスタ2022参加協力 於:文京シビックセンター
7月		2日	■西南学院大学出前授業開催	2023年	1月	14日	■TeNQ×印刷博物館コラボ「チ。地球の運動について」 講演&出張ワークショップ協力(～15日)
		28日	■第79回産業文化博物館コンソーシアム開催 (オンライン) 於:ツムラ漢方記念館			21日	■活版歴史教室「活字のブランドPIN MARK」開催 (オンライン)
		30日	★ギャラリー「知っているようで知らない! 本のいろいろ」展開催(～9月25日)			27日	■第81回産業文化博物館コンソーシアム開催 於:印刷博物館
		8月	2日			■夏休み体験教室開催(～31日)	28日
■硬券印刷体験「きて、みて、刷って 昔のきつぷ」開催 (～9月2日、10月14日～16日)	2月			4日	■大人のための活版ワークショップ「和紙の名刺」開催 (～5日)		
5日				■実践女子学園高等学校図書委員授業協力	18日	■「第3回印刷文化学会議」開催 於:日本橋ホール&オンライン	
9月		22日	■実践女子学園高等部SDGs夏休み特別授業協力 (～24日)	24日	24日	■実践女子大学「至誠太陽の子保育園」 臨床美術授業	
		26日	■都立飛鳥高校インターンシップ授業協力		3月	4日	■大人のための活版ワークショップ 「ガリ版メッセージカード」開催(～5日)
		1日	■文の京ミュージアムネットワーク 入館料助成キャンペーン参加協力(～10月30日)			8日	■武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科2年生対象 「活版印刷の基礎とアダナの使い方講座」開催
		17日	★「地図と印刷」展開催(～12月11日)			9日	■文京区立金富小学校4年生授業(～10日)
		28日	■文京区立音羽中学校職場体験授業協力(～29日)			17日	■経産省主催「日本のデザインを語るデザイン ミュージアムの在り方を考える」カンファレンスに登壇
30日	■実践女子大学臨床美術授業協力 (10月14日、28日、11月4日、25日、12月9日、23日)	18日	■小説家ほしおさなえ氏「140字小説和綴じ本 体験イベント」に協力(～19日)				
10月		1日	★ギャラリー「現代日本のパッケージ2022」展開催 (～12月4日)	24日	■「世界のブックデザイン2021-22」展 製本ワークショップ初級・中級		
		8日	■大人のための活版ワークショップ 「花形活字のレターセット」開催(～9日)		■第82回産業文化博物館コンソーシアム開催 於:セイコーミュージアム銀座		
		11日	■水害対応防災訓練実施				
		12日	■文京区立金富小学校5年生授業 (27日、11月11日、17日)				
		21日	■国立国会図書館職員実習協力				

★……展示室企画展、ギャラリー企画展

■……印刷博物館の出来事

PRACTICING PRINTING CULTURE STUDIES

印刷文化学の実践

2020年のニューアルオープンと同時に、印刷博物館はこれまで20年間の調査研究成果をもとに新しい学問「印刷文化学」の立ち上げを宣言しました。

「印刷文化学」は印刷と人々との関係を長期文化文明史的な視点から捉え直し、関わった社会や人々の営みを検証する学問体系です。

この新しい学問体系に、まだ定まった定義は存在せず、印刷文化に関連する館内外での研究活動の報告を通して可視化を試みます。

研究活動を「深める」「伝える」「つながる」という3つの関り方で分類し、個々の活動が連環することで、より成熟した学問への昇華を目指しています。

緒についたばかりのこの活動は、館内だけの活動のみならず産官学の皆さまのご参加や意見を募ることで変容・成長させていくことができるプラットフォームとして位置付けています。

When reopening after the completion of renovations in 2020, Printing Museum, Tokyo declared the new academic field of *Printing Culture Studies* based on the achievements of its 20-year-long research.

Printing Culture Studies aim to shed light on what printing means for human civilization, take a fresh look at it from a long-term cultural perspective, and explore the activities of the people and societies involved.

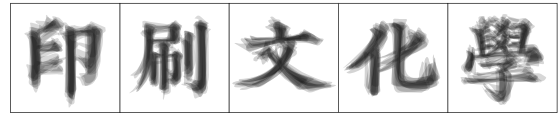
Because the definition of this new academic field is yet to be fixed, the Museum is visualizing it in the form of presenting the results of its research on the culture of printing in and outside the Museum.

The Museum will elevate Printing Culture Studies to a more refined academic realm by categorizing the research activities into three objectives of “deepen,” “communicate,” and “connect” and intertwining separate activities.

Since this effort is still at the nascent stage, it is positioned as a platform that will transform and grow by inviting stakeholders from industry, the public sector and academia, and incorporating their opinions.

● 印刷文化学 ロゴマーク

博物館活動の中で、印刷文化学に関連する取り組みにはロゴマークを付与します。



PRINTING CULTURE STUDIES

印刷文化学 ロゴマーク

● ロゴマークのコンセプト：学問の追究は「重ねる」こと

学問を追究する手段のひとつである調査・研究は歴史資料を比較・俯瞰する、もしくはほかの領域との比較によって検証すること、つまりはさまざまなモノとの「重なり」から立ち上がっているものと考えます。その学問を視覚的に表現する手段として、印刷博物館が所蔵する資料の中から印刷文化学のそれぞれの文字に該当する約10種類の文字を選んで重ねる方法を用いました。

● Printing Culture Studies logotype

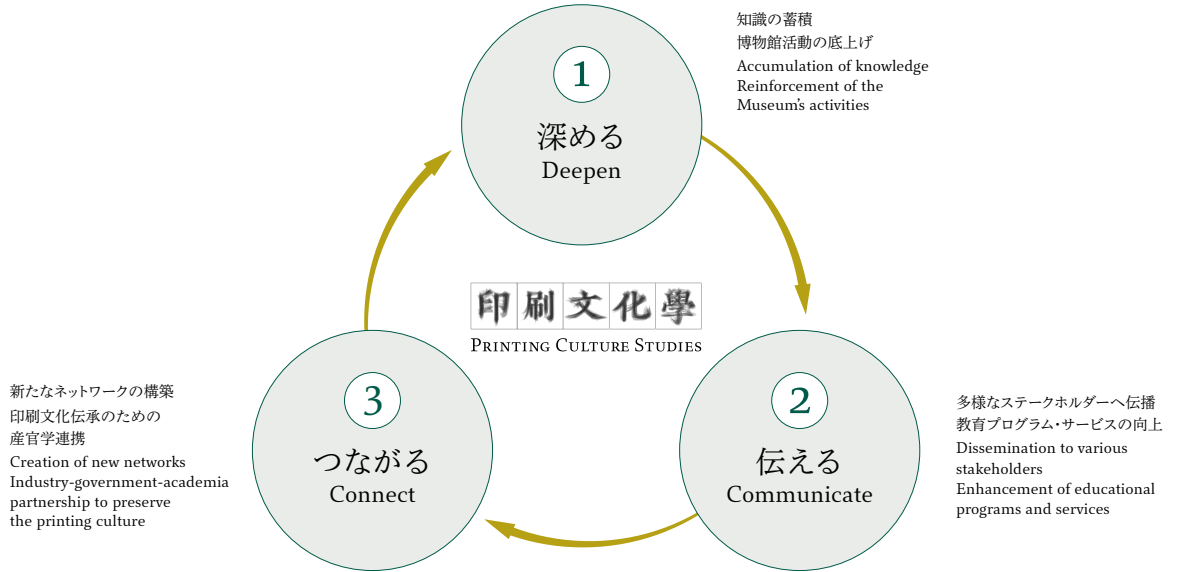
The Museum will use a logo to clearly indicate which of its initiatives are related to Printing Culture Studies.

● Concept of the logo: academic pursuit is all about *layering*

The foundation of research, one way of academic pursuit, is layering different things, as research means comparing and examining historical materials or verifying the subject through comparison with other subjects. To visually represent this, each of the five Chinese characters denoting Printing Culture Studies is expressed by layering 10 different types of character extracted from the Museum's collection of printed materials on top of one another.

● 「印刷文化学」可視化のための3つの分類
 Three types of activities for visualizing Printing Culture Studies

● 個々の取り組みの連環イメージ
 Image diagram of intertwining separate activities



<p>1 深める [研究活動] Deepen research activities</p>	<p>2 伝える [ラーニングプログラム] Communicate learning programs</p>	<p>3 つながる [アライアンス] Connect alliance</p>
<p>学芸員および印刷工房インストラクターによる日々の活動を通じた技術的・歴史的側面からの印刷文化の研究</p> <p>主な活動項目</p> <ul style="list-style-type: none"> 学芸員による自主テーマ研究および企画展の開催 収蔵資料調査 テーマ別活動 活版マイスター制度 <p>Researching the culture of printing from the technological and historical aspects through the daily activities of curators and Printing House instructors</p> <p>Main activities</p> <ul style="list-style-type: none"> Curators' independent research on specific themes and organization of temporary exhibitions Investigation of the Museum's collection Theme-specific activities The Letterpress Meister system 	<p>研究活動の成果を、講演やイベント、ワークショップを通して多様なステークホルダーに提供する教育・普及活動</p> <p>主な活動項目</p> <ul style="list-style-type: none"> 展覧会関連プログラム 印刷文化の伝承プログラム ギャラリートーク 体験型ミニレクチャー <p>Presenting research achievements to various stakeholders through lectures, events and workshops for educational and out-reach purposes</p> <p>Main activities</p> <ul style="list-style-type: none"> Exhibition-related programs Printing culture preservation programs Gallery talks Experiential mini-lectures 	<p>館外の組織や個人と連携しながら、ともに印刷文化学とは何かを追究する取り組み</p> <p>主な活動項目</p> <ul style="list-style-type: none"> 印刷文化学会議 印刷博物館の国際ネットワーク参加 (IAPM) 外部機関との連携によるタイポグラフィ研究 外部組織との連携による機器道具類の保存伝承 <p>Pursuing Printing Culture Studies together with external organizations and individuals</p> <p>Main activities</p> <ul style="list-style-type: none"> Printing Culture Conferences Participation in a network of the International Association of Printing Museums (IAPM) Typography research in collaboration with external institutions Preservation of apparatuses and tools in collaboration with external organizations

地図と印刷

MAP and PRINTING

2022年9月17日(土)～12月11日(日)



企画内容

私たちが暮らしていくうえでなくてはならない地図。古来地理情報を伝える表現技法のひとつとしてつくられてきました。またより多くの人に伝えるため、印刷物となりました。日本において印刷された地図が登場するのは近世です。民間での印刷・出版の拡大によりさまざまな地図や地誌がつくられます。やがて蘭学が発展すると、西洋の地図知識を吸収し、世界が広がります。近世後期には伊能忠敬により近代的な地図づくりが幕を開け、大きな影響を与えました。本展は日本の近世を中心にスポットをあて、地図や地誌づくりにおける印刷と人々とのかかわりを探りました。

Maps are indispensable for our daily lives. Since ancient times maps have been created as a way to communicate geographical information, and they were made available in the form of printed material for use by a great number of people. Specifically in the early modern period, the first printed map appeared in Japan, and a range of maps and geographical materials were subsequently made in accordance with the expansion of printing and publication activities in the private sector. Furthermore, in line with the development of Dutch studies in Japan, Western knowledge about maps was introduced to the country, which broadened the local world of maps. Then, in the latter half of the early modern period, Ino Tadataka created the first modern map of Japan, which had a great impact on the country.

展示構成

● プロローグ 紙からデジタルへ

地図が情報を加えて編集加工してつくられることは現代でも変わらず、デジタル空間という新たなメディアで暮らしを支えています。プロローグ奥のデジタル空間での地図表現を体感できるコーナーで、マピオンテックラボの3Dマップと、江戸時代の「富士見十三州輿地全図」を比較したり、空中ディスプレイを使って、地図資料のデジタル画像を先進的で不思議な操作感を楽しみながら、過去から現代の編集加工や閲覧の移り変わりを体感いただきました。



空中ディスプレイ



第1部展示風景

● 第1部 日本の印刷地図のはじまりと文治の展開

日本で印刷された地図のはじまりは、古活字版『拾芥抄』でした。日本では近世初頭に京都で木版印刷による民間の印刷・出版がはじまりますが、地図の印刷も同様にスタートしました。最初の中世以来の世界観を持った日本図が描かれました。争いのない平和な時代が到来し、文化の受け手となる層が拡大すると、石川流宣が手掛けた日本図「流宣図」は、スタンダードとなり、地図（絵図）が大衆化しました。

● 展示資料

- ・ 慶長古活字版『拾芥抄』
- ・ 「万国総図」、「世界人物図」
- ・ 『海東諸国紀』
- ・ 「日本海山潮陸図」
- ・ 『江戸図鑑綱目』
- ・ 「日本図」『世界の舞台』より
- ・ モレイラ「日本図」

計34点



第1部展示風景



第2部展示風景

第3部展示風景

● 第2部 地誌の探究と拡がる世界

文治政治の展開により、実証性を重視する風潮が強まり、考証された地図づくりが拡がっていきます。正しい日本の地図の姿を追い求めたのが長久保赤水です。赤水の日本図「赤水図」は近世後期から近代に至るまで日本人にとっての「日本」のイメージとして用いられ、西洋でも日本の地理を知るための参考資料とされました。

一方で、徳川吉宗による漢訳洋書の輸入緩和は蘭学の発展を促し、蘭学を学ぶ者を中心に広い世界へと目を向け、西洋の地図知識をも受容しようとしてきました。

● 展示資料

- ・「改正日本輿地路程全図」
- ・「地球万国山海輿地全図説」
- ・シーボルト「九州図」『日本』より
- ・「地球隋円図」「天球全図」より
- ・『泰西輿地図説』
- ・「噶蘭地球全図」
- ・「円球万国地海全図」

計20点





第3部展示風景

● 第3部 世界との接近と伊能図の衝撃

ロシアの南下政策など西洋列強との接触が増す中で、幕府は海防意識を強め、世界と日本が急速に接近をしていきました。地図は人々の関心を引きつけ、時には幕府の取締りの対象にもなり、国内外の社会的な事象と地図が密接に関係するようになっていきます。伊能忠敬は日本初の実測日本地図「大日本沿海輿地全図」（伊能図）を手掛けました。近代的な地図づくりが幕を開け、後に日本における地図制作に大きな影響を与えることとなりました。

● 展示資料

- ・『三国通覧図説』
- ・『海国兵談』
- ・「新訂万国全図」
- ・「官板実測日本地図」
- ・「官板実測日本地図」版木
- ・「東西蝦夷山川地理取調図」
- ・「北海道国郡全図」

計52点



第3部展示風景

● 開催概要

会期	2022年9月17日(土)～ 12月11日(日)
主催	凸版印刷株式会社 印刷博物館
協力	海上保安庁、國學院大学図書館、 ゼンリンミュージアム、土浦市立博物館、 東京大学史料編纂所、東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻、 広島県立歴史博物館、明治大学図書館
出品点数	106点
入場者数	13,172人



ギャラリー展示

グラフィックトライアル2022

—CHANGE—

Graphic Trial 2022 -CHANGE-

2022年4月23日(土)～7月24日(日)



企画内容

第一線で活躍するクリエイターがプリンティングディレクター(PD)とともに、約半年にわたり印刷実験を重ねグラフィック表現を追求する試みの16回目。今回のクリエイターは、居山浩二氏、GOO CHOKI PAR、小玉文氏、田中良治氏、増永裕子氏。

今年は、“CHANGE”をテーマに、各5枚のポスター制作に向けた印刷実験が行われました。

会場では例年同様、独創的なアイデアと多様な印刷技術を組み合わせて完成したポスターと、クリエイターとプリンティングディレクター(PD)の試行の跡がうかがえる制作過程を、合わせて紹介しました。

開催概要

会期	2022年4月23日(土)～ 7月24日(日)(開催日数80日)
主催	凸版印刷株式会社 印刷博物館
後援	公益社団法人日本グラフィック デザイン協会(JAGDA)
企画	凸版印刷株式会社グラフィック アーツセンター
入場者数	5,220人(65人/日)
特記	音声ガイドとバーチャルギャラ リーの導入(グラフィックアーツ センターによる)





- 参加クリエイターと
トライアルのテーマ・内容

● 居山浩二
グラフィックデザイナー
テーマ：Not Dot

濃度が24段階に分かれるように網点をデザインし、CMYKの版を制作して絵柄再現に挑戦した。

PD：田中一也

● GOO CHOKI PAR
デザインユニット

テーマ：MASQUERADER

紙を半透明にする加工を施すことで、表裏の境界を曖昧にし、新たな奥行きと質感を生み出す表現を探った。

PD：岩山中



● 田中良治
ウェブデザイナー

テーマ：5 SISTERS

消灯時は白い紙、点灯時はネオンサインというような、ふわりと浮き上がっては紙の中に沈んでいく変化する印刷表現を試みた。

PD：長谷川太二郎

● 小玉文
アートディレクター、デザイナー
テーマ：トライ・アン・ケム

煙、霞、雲など、色面を隠す要素を「ケム」と名付け、その表現を印刷方法やインキで探った。

PD：山口理一、三木聖也



● 増永裕子
セキュリティデザイナー、凸版印刷株式会社
テーマ：BORDER

印刷とホログラムの新しい表現を追求すべく、光り方のコントロールや、見え方の再現、印刷とホログラムの共存などを試みた。

PD：富永志津

*参加クリエイターの肩書きは展覧会開始時のものです。



知ってるようで知らない! 本のいろいろ

Exhibition on Books: Learn about paper books
more closely and deeply

2022年7月30日(土)～9月25日(日)

企画内容

私たちにとても身近な印刷物である本の「つくり方」をテーマに、本の基本的な構造や各部の呼び名、制作手順などベーシックな本から、見たこともないようなユニークな本も紹介しました。夏休みの自由研究や体験教室に参加した方に、より深く本について知ってもらえる内容となりました。コロナ禍ではありましたが、お客さまには手袋を着用いただき、実際に本を手にとってみていただけるコーナーや、本に関する本を閲覧できるコーナーなどを設けました。



展示内容

基本編 本のかたち

本のかたちの基本について、「上製本と並製本」、「本の各部の名前」、「昔の本-和装本」についてパネルと製本見本で紹介しました。

基本編 本のつくり方

ページがある本をつくる時に必要な5つの工程「印刷」、「折り」、「丁合い」、「綴じ」、「断裁」を、製本途中の部材とともに紹介。お客さまには折丁を開いてもらったり、丁合いしてもらったりしました。

基本編 代表的な製本

上製本と並製本の製造工程と、代表的な製本方法について、上製本は丸背、角背の違いと仕立て方の違いを、並製本はのり、針金などの綴じ具の違いを紹介。

見たことない! こんな本

「こんな本あり?」と驚くような、見たこともないような面白い本を紹介。「超大きい本と超小さい本」では、ギネス世界記録™として認定された超大型漫画本と超小型本を展示。また、「仕掛け本」や「奇想天外な本」など、さまざまなユニークな本を手にとってご覧いただきました。

豆知識

本づくりに欠かせない豆知識を紹介。紙目によって変わる本の開きの良し悪しや、紙の種類によって異なる本の重さの違いなど、東見本を開いたり持ち上げたりして体感していただきました。

開催概要

会期	2022年7月30日(土)～ 9月25日(日) (開催日数50日)
主催	凸版印刷株式会社 印刷博物館
企画協力	図書印刷株式会社
協力	東京書籍株式会社、株式会社フ レーベル館



入場者数 2,996人(60人/日)





現代日本のパッケージ2022

Modern Japanese Package 2022

2022年10月1日(土)～12月4日(日)

第61回ジャパンパッケージングコンペティション

2022日本パッケージングコンテスト(第44回)

JPDA パッケージデザイン インデックス 2022〈特集：パッケージデザインとキャラクターたち〉



企画内容

日本を代表するパッケージコンクールの受賞作品を通じて、身近な印刷物の代表例であるパッケージの面白さ、奥深さを伝える企画。受賞作品を通じて、パッケージ製作における解決すべき課題の発見、それらに対して取られてきたさまざまな取り組みを紹介しました。またそれとともに、現代のパッケージ開発におけるSDGs(持続可能な開発目標)の取り組みなどを、それらを評価したコンクールの視点で、消費者である来館者にわかりやすく紹介しました。

隔年で設けているパッケージデザインのテーマ展示では、キャラクターという切り口でパッケージデザインの手法を分類し、なるほどと思わせるデザインの意味や効果などを紹介しました。

展示内容

第61回ジャパンパッケージングコンペティション

主催：一般社団法人日本印刷産業連合会

市場で販売されている商品化されたコマーシャルパッケージの優秀性を競う商品包装コンペティション。経済産業大臣賞を筆頭に選ばれた37作品を紹介しました。

2022日本パッケージングコンテスト(第44回)

主催：公益社団法人日本包装技術協会

材料、設計、技術、適正包装、環境対応、デザイン、輸送包装、ロジスティクス、販売促進、アイデアなどあらゆる機能から見て1年間の優秀作品を選定するコンテストです。ジャパンスター賞12賞をはじめ、6つの包装技術賞、13の包装部門賞があり、本展では、このうちのジャパンスター賞と包装技術賞の受賞作の一部を紹介しました。

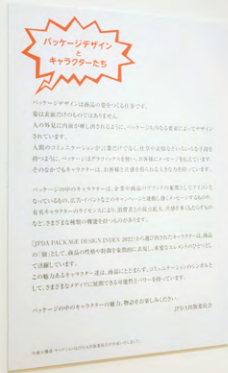
JPDA パッケージデザイン インデックス 2022

〈特集：パッケージデザインとキャラクターたち〉

主催：公益社団法人日本パッケージデザイン協会

商品の姿を形づくるパッケージデザインに登場するキャラクターは、消費者の共感を呼ぶ大きな力を持っています。『JPDA パッケージデザイン インデックス 2022』に掲載されたパッケージの中から、商品の「顔」として、商品の性格や特徴を象徴的に表現しているキャラクターを選び、その魅力を紹介しました。

特集
JPD A パッケージデザイン インデックス 2022
パッケージデザインとキャラクターたち



開催概要

会期	2022年10月1日(土)～ 12月4日(日) (開催日数56日)
共催	凸版印刷株式会社 印刷博物館、一般社団法人日本印刷産業連合会、公益社団法人日本包装技術協会、公益社団法人日本パッケージデザイン協会



入場者数 7,475人 (135人/日)



世界のブックデザイン2021-22

World Book Design 2021-22

2022年12月10日(土)～2023年4月9日(日)



● 企画内容

「世界で最も美しい本コンクール」の2022年の受賞作品とともに、日本、ドイツ、オランダ、オーストリア、フランス、カナダ、中国の各コンクールで入賞した、優れたデザインの書籍約160点を紹介しました。

パンデミックに対する対策が奏功し、例年の応募国のほとんどでコンクールが実施された一方で、物流の停滞により出品作品が審査に間に合わないアクシデントが起こるなど、まだ平常とは言えない部分も残った2022年の世界で最も美しい本コンクールでしたが、本展では数年ぶりに全受賞作14点を紹介することができました(ウクライナの受賞作は伊版と仏版を紹介)。また、全国規模のブックデザインコンクールが途絶えて久しいフランスでコンクールが開催され、素晴らしい作品20点を紹介することができました。

● 展示内容

- ・世界で最も美しい本コンクール「Schönste Bücher aus aller Welt 2022」受賞図書
- ・〈日本〉「第55回造本装幀コンクール」受賞図書
- ・〈ドイツ〉「Die schönsten deutschen Bücher 2022」受賞図書と「若いブックデザイナーのための奨励賞」
- ・〈オランダ〉「De Best Verzorgde Boeken 2021」受賞図書
- ・〈オーストリア〉「Die schönsten Bücher Österreichs 2021」受賞図書
- ・〈フランス〉「Prix unique du livre - Best Book Design from France」受賞図書
- ・〈カナダ〉「2020&2021 The Alcuin Society Awards for Excellence in Book Design in Canada」受賞図書
- ・〈中国〉「2021年度最美的书」受賞図書
- ・〈印刷の技〉最近の凸版印刷(株)受注品の中から高品質のものを選り解説



開催概要

会期	2022年12月10日(土)～ 2023年4月19日(日) (開催日数99日)
主催	凸版印刷株式会社 印刷博物館
後援	カナダ大使館、公益社団法人 日本グラフィックデザイン協会 (JAGDA)
協力	ゲーテ・インスティトゥート東京、 一般社団法人日本印刷産業連 合会、一般社団法人日本書籍 出版協会、オランダ王国大使館、 Stiftung Buchkunst、De Best Verzorgde Boeken、Respons- able du développement et de la communication
入場者数	10,182人(102人/日)



常設展

● 常設展展示替え

より多くの資料をお客さまの閲覧に供すること、資料保存の観点から、年に1度常設展の資料の入れ替えを行っています。2022年に入れ替えた資料を紹介します。

● 紙資料

● 印刷の日本史

● 06 | 江戸で成熟した印刷・出版

①「諸山の八天狗御曹司牛若丸の影身に添ひ武蔵坊弁慶を伏さしむる図」(資料No.00212)

絵師は武者絵で有名な国芳。大迫力な構図の三連錦絵。

②「八代目 市川団十郎 死しにえ絵」(資料No.40611)

幕末に活躍した歌舞伎役者、八代目市川団十郎が亡くなった際に描かれた死絵。

● 17 | 近代化を支える印刷

③〈クラブ白粉〉(資料No.40873)

明治時代に創業した化粧品メーカー中山太陽堂の美人画ポスター。

● 印刷の世界史

● 1900-

④〈ロレンザッチオ〉(資料No.20843)

アルフォンス・ミュシャが手掛けた演劇ポスター。

⑤〈コート・ダジュール〉(資料No.20841)

里見宗次が手掛けたフランスの観光ポスター。

⑥〈戦いたいのならば!〉(資料No.41278)

アメリカ海兵隊のプロパガンダポスター。

● 機械

● 印刷×技術

⑦ライノタイプ(資料No.33357)

1行分の活字を鋳造、文選、植字する機械。その母型や組版も併せて紹介。機械の構造や鋳造の工程を紹介する映像を展示しました。

⑧モノタイプ(さん孔機)(資料No.33361)

鋳植機にかける紙リボンに穴をあける機械。

⑨モノタイプ(鋳植機)(資料No.33360)

紙リボンに記録した文字を1字ずつ鋳植する機械。



①



②



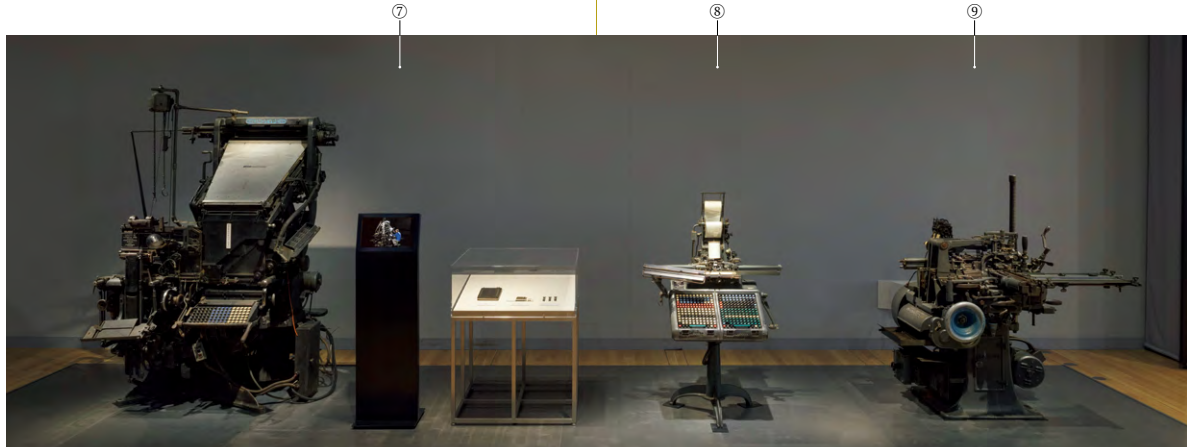
③



④

⑤

⑥



⑦

⑧

⑨

テーマ活動

● 中世ギリシャ語写本翻刻プロジェクト

2005年からヴァチカン教皇庁図書館と実施してきた羊皮紙写本のデジタル化プロジェクトの後継として、2017年より、凸版印刷(株)の技術開発部門、事業開発部門と連携し、ディープラーニングを用いた中世ギリシャ語写本の翻刻プロジェクトを推進しています。これは当社が開発したくずし字OCRの技術を応用し、中世ギリシャ語写本をAIが解読するものです。

昨年につづき開発段階のシステムの、ギリシャ文字認識の精度向上に向け、古典文学を中心に教師データの充実化を図りました。また、12月にはヴァチカン教皇庁図書館を訪問しプロジェクトの進捗について報告しました。



12月にヴァチカン教皇庁図書館と面談

● 収蔵資料を題材にSDGs授業を実施

2021年度に締結した包括的連携協定の一環で、8月23日(月)から25日(水)の3日間、「持続可能な社会を印刷博物館で考える」と題し、実践女子学園高等学校の生徒とともにSDGsを学ぶ夏休み特別授業を実施しました。

初日の展示見学で、印刷の社会的役割を理解し、2日目は課題発表に向けた調査や資料作成を行いました。最終日は、課題「明治期と現代の教科書を比較し、課題を見つけ、未来について考える」に対し、教科書に掲載された逸話を起点に持続的な紙の利用について問題提起したほか、明治期と現代の教育制度の違いに着目しヤングケアラーの問題の解決を探るなど、丹念な調査に基づく、社会問題に正面から向きあった発表をしました。



生徒発表後の集合写真

ゲーテンベルク博物館との活動協力

4月19日(火)から7月24日(日)にかけて、活版印刷文化の保存をめざし、ユネスコ無形文化遺産登録に向けて賛同者を募る声明「Mainzer Impuls(マインツ・インパルス)」を日本に広めるためのミニ展示とオンライン署名活動を実施しました。これは世界的な印刷・出版系文化施設で、ドイツの都市マインツにあるゲーテンベルク博物館が提唱しています。

印刷博物館の訪問団は11月30日(水)にゲーテンベルク博物館を訪問し、当イベントの実施報告をするとともに、皆さまにいただいた1,952件の署名を目録にして渡しました。また同日、日本を含むアジアの印刷文化を紹介するコーナーで、今後の活動協力に関する覚書を締結するセレモニーが開かれました。この覚書は、日々の活動における情報交換だけでなく、展示や講演会、イベントなどでの協力をうたったものです。マインツ市文化担当のグロッセ局長、ゲーテンベルク博物館のゼルター館長、印刷博物館の金子館長はこの協力の意義や今後の展望についてスピーチしました。

印刷文化の伝承に向けて両館の活動をさらに充実させるべく力を合わせていきます。



ミニ展示「マインツ・インパルス」会場風景



覚書締結(左からゼルター館長、グロッセ局長、金子館長)

活版マイスター制度

- 活版マイスター制度
「アジアの活版印刷文化のフロントランナー」を目指して2年目
- 活版マイスター制度とは
活版印刷というアナログ技術の継承は、すべて人に紐づくものです。映像に遺してもその技術を今生きている人が体現できないとすれば、それは失われた技術ということになります。
印刷工房では昨年度より、活版マイスター制度と名付けた技術伝承のカリキュラムを開始しています。活版印刷という技術を人から人へ繋げ、今実現できる技術として遺していくため、永続的な技術継承を可能にする伝承システムの構築を目指しています。そのカリキュラムの中には、アジアにおいて活版印刷の研究に携わり深耕している方々に比肩する知見を身に着けることも含まれています。理論と技術の両面からアジアにおける活版印刷文化をリードできる集団となることを目指しています。
- カリキュラムについて
全体を初級、中級、上級の3ランクに分け、初級19課題、中級12課題、上級13課題の計44課題を設定し、全課題修了で活版マイスター認定を受けることになります。
実技系課題は、文選、植字といった活版印刷の中核技術はもとより、活字を取めるすだれケースの作成・補修、樹脂版の作成、といった活版印刷を支える周辺技術まで含みます。研究系課題は、書誌学の基礎知識、任意の書体研究、国産活版関連機械の理解など広範囲の知識の習得を目指しています。
スケジュールの組み立てはスタッフ各自の自主判断で行い履修に取り組んでいます。

- 2022年度の活動
課題履修を停滞させないため、対応可能な課題についてリーダー制を導入しました。

まずリーダーが担当する課題に取り組みます。リーダーが課題をこなしていく過程で、最初に机上で設定した課題の難易度、クリア条件を検証し、実務として適正な難易度とクリア条件に調整し直します。リーダーが課題をクリアした実績を基に勉強会にてほかのスタッフに調整した内容を説明し課題への取り組みを促します。

必ず各スタッフがそれぞれ一つの課題のリーダーとなることで、課題取り組みの責任感も生まれ、未履修の課題への足掛かりもつくることができたことは大きな成果でした。

現在もトライアル&エラーで、日々履修が滞らぬように細部の調整や見直しを行っています。



小型プレス機操作のレクチャー風景



すだれケース

● 地図と印刷展講演会
「絵図から地図へ」

日時	10月22日(土) 14:00～15:30
会場	印刷博物館 研修室
参加者数	52人
講師	上杉和央(京都府立大学文学部准教授)
内容	日本図を中心とした企画展のみどころと江戸時代における印刷・出版された3つの代表的な日本図、「行基図」「流宣図」「赤水図」の大きな変遷を、それらの地図が生まれてきた時代・社会的背景を振り返り、解説した講演です。

● 地図と印刷展講演会
「松平定信の外交-北の国から1792来航」

日時	11月5日(土) 14:00～15:30
会場	印刷博物館 研修室
参加者数	46人
講師	杉本竜(桑名市博物館館長)
内容	展覧会第3部の主要な人物のひとりが松平定信です。日本と世界が急速に接近し、大きな時代のうねりが迫る中で定信がどのように外交面に対応したのか、関連する作品を交えて解説した講演です。

● 地図と印刷展講演会
「水戸藩地図製作者の系譜
-長久保赤水から横山大観の父と伯父へ」

日時	11月26日(土) 14:00～15:30
会場	印刷博物館 研修室
参加者数	43人
講師	小野寺淳(放送大学茨城学習センター所長・特任教授)
内容	展覧会第2部の代表的な人物の長久保赤水を中心に、日本画家・横山大観の父・酒井捨彦など赤水からはじまる水戸藩地図製作者の系譜について解説した講演です。



小野寺氏講演会風景

● 地図と印刷展講演会
「絵図・地図が語る景観-景観研究への招待-」

日時	12月3日(土) 14:00～15:30
会場	印刷博物館 研修室
参加者数	48人
講師	橋本直子(元葛飾区郷土と天文の博物館学芸員)
内容	展覧会で展示していた作品などをもとに、古い地図や浮世絵、現代の地図などを用いて景観復原を試みました。また、絵図と地図との違いや景観復原について解説した講演です。



橋本氏講演会風景

- グラフィックトライアル2022 ONLINE トークイベント

日時	2022年4月22日(金) 18:30～20:00
登壇者	居山浩二、GOO CHOKI PAR、小玉文、田中良治、増永裕子
参加者数	304人
配信方法	Zoom
内容	展覧会開催前夜に参加クリエイターが会場に集まり、作品解説を行うイベントを開催。自らのトライアルに関する注目を説明いただきました。



クリエイター集合写真

- オンライン・デザイントーク

日時	2022年6月8日(水) 19:00～20:30
登壇者	小玉文×増永裕子
参加者数	133人
配信方法	Zoom
日時	2022年6月17日(金) 19:00～20:30
登壇者	居山浩二×永井裕明
参加者数	104人
配信方法	Zoom
内容	会期中に閉館後のギャラリーを会場とし、クリエイターによる対談を開催しました。初回はともに今回のトライアルに参加された小玉氏、増永氏による対談。二回目は今回参加の居山氏が、2008年のトライアルに参加された永井裕明氏をゲストに迎える形で、対談を開催しました。



居山浩二氏(左)、永井裕明氏(右)対談の様子

- 現代日本のパッケージ2022 ONLINE トークショー
「パッケージデザインの力～キャラクターの魅力～」

日時	2022年10月30日(日)
登壇者	加藤芳夫(JPDAパッケージデザインの学校校長/デザインのココロ研究室)、山崎茂(JPDA出版担当理事/株式会社コーサー)、石原由紀子(JPDA出版委員会委員長/トイン株式会社)
参加者数	71人
配信方法	Zoom
内容	展示された〈特集:パッケージデザインとキャラクターたち〉について、企画を担当したJPDAの方々に、展示の意図などについて解説いただきました。



トークショーの様子

- 世界のブックデザイン2021-22 ONLINE トークショー
「第55回造本装幀コンクールを振り返って」

日時	2023年1月29日(日) 14:30～16:00
登壇者	秋山伸(神戸芸術工科大学教授、多摩美術大学客員教授)、濱崎実幸(ブックデザイナー)
参加者数	82人
配信方法	Zoom
内容	コンクールの審査員をお招きし、審査の過程や今回受賞した図書のポイントをお話いただきました。



トークショーの様子

- 世界のブックデザイン2021-22 トークショー
「第55回造本装幀コンクール受賞者〈受賞作〉を語る『広告 Vol.415 特集:流通』」

日時	2023年2月19日(日) 14:30～16:00
会場	印刷博物館研修室
登壇者	篠原慶丞(ディレクター)、上西祐理(グラフィックデザイナー)、加瀬透(グラフィックデザイナー)、牧寿次郎(グラフィックデザイナー)
参加者数	28人
内容	経済産業大臣賞を受賞した『広告 Vol.415 特集:流通』は、梱包材が装幀となる特異な形を備えていました。制作チームの方々に、本書が出来上がるまでの過程をお伺いしました。

印刷文化の伝承プログラム

PRINTING CULTURE
PROGRAM FOR INHERITANCE OF

● 多摩美術大学 講義「印刷概論I」

第2回 印刷の歴史①(印刷の世界史)	
日時	2022年4月19日(火) 10:30～12:00
担当	石橋圭一
参加者数	190人
第3回 印刷の歴史②(印刷の日本史)	
日時	2022年4月26日(火) 10:30～12:00
担当	山口美佐子
参加者数	169人
第4回 印刷の仕組み①(凸版・凹版)	
日時	2022年5月10日(火) 10:30～12:00
担当	山口美佐子
参加者数	173人
第5回 印刷の仕組み②(平版・孔版)	
日時	2022年5月17日(火) 10:30～12:00
担当	石橋圭一
参加者数	167人
配信方法	Google Classroom、Zoom
内容	多摩美術大学グラフィックデザイン学科の学生を中心とした講義「印刷概論I」の第2～5回を印刷博物館にて担当しました。



印刷の歴史② 講義スライド

● 武蔵野美術大学 造形学部視覚伝達デザイン学科専門科目「印刷概論 印刷博物館の紹介」

日時	2022年6月11日(土)
担当	宗村泉
参加者数	100人
配信方法	Zoom
内容	本授業は専門科目「印刷概論」の中の印刷博物館の見学というプログラムです。例年は実際に見学をしていましたが、コロナ禍のため実施できずにオンラインで印刷博物館のコンテンツや展示状況を紹介しました。

● 出前授業

大学やその他の機関を対象に、印刷文化に関するワンタイムの授業(講義)を実施しました。「印刷の日本史」「印刷の世界史」を中心に各施設のご希望に沿って授業内容を組み立てています。

梅花女子大学講義「マスコミ概論」	
日時	2022年6月17日(金) 10:45～12:15
配信方法	Zoom
担当	石橋圭一
参加者数	48人

東京大学文化資源学ゼミ「ヨーロッパにおける書物史」	
日時	2022年6月17日(金) 14:55～16:40
場所	東京大学文化資源学研究室
担当	中西保仁
参加者数	12人

西南学院大学博物館企画展関連イベント「印刷の世界史」	
日時	2022年7月2日(土) 14:00～15:30
場所	西南コミュニティーセンター1階ホール
担当	中西保仁
参加者数	58人

東京都立総合芸術高等学校授業「印刷の世界史」	
日時	2022年8月3日(水) 13:30～15:00
場所	印刷博物館 研修室
担当	中西保仁
参加者数	34人

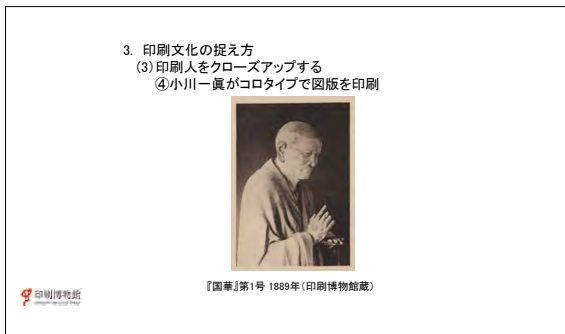
相模女子大学講義「印刷の世界史」	
日時	2022年11月14日(月) 13:00～14:00
配信方法	Zoom
担当	石橋圭一
参加者数	34人

● 一般社団法人日本印刷学会 第147回 研究発表会

日時	2022年6月17日(金) 14:00～14:50
担当	式洋子
参加者数	35人
配信方法	Zoom
内容	「印刷がもたらした日本文学の発展と読書文化の広がり」と題し、江戸から明治初期の日本文学の発展と印刷が果たした役割について講演しました。

● 第29期JPIC読書アドバイザー養成講座
「印刷の醍醐味」

日時	2022年8月27日(土) 13:05～14:35
担当	川井昌太郎
参加者数	124人
配信方法	Zoom
内容	一般財団法人出版文化産業振興財団による第29期JPIC読書アドバイザー養成講座の「印刷」科目にて講義しました。印刷博物館を紹介した後、「絵本のできるまで」「印刷の基礎知識」「印刷文化の捉え方」という視点から印刷の醍醐味を紹介しました。

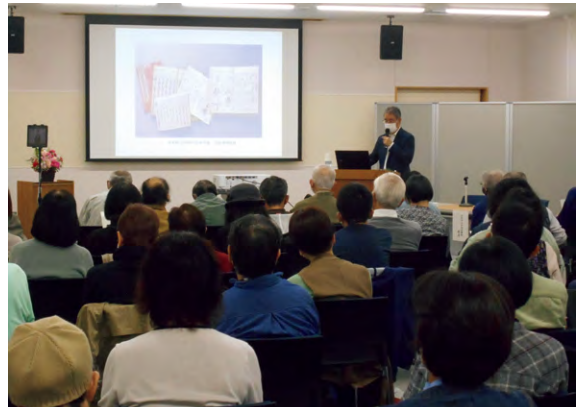
● 群馬県立近代美術館「理想の書物」講演会
「理想の書物と組版とは」プライベート・プレスの書体を俯瞰して考える

日時	2022年11月5日(土) 14:00～15:30
場所	群馬県立近代美術館講堂
担当	木谷正人
参加者数	45人
内容	群馬県立近代美術館「理想の書物」展の講演会において、印刷・タイポグラフィの視点で英国の美しい書物を創るために奔走した人々と活字にスポットを当て、解説しました。また、博物館が所蔵する英国のプライベート・プレス関連の貴重書9冊も展示協力しました。



● 浜松市立中央図書館主催読書推進講演会にて講演

日時	2022年11月13日(日) 14:00～16:00
場所	浜松市立中央図書館・アーカイブ配信 (YouTube)
担当	緒方宏大
参加者数	講演会59人・アーカイブ配信150人
対象	一般
内容	「家康は活字人間だった!! -江戸時代の印刷文化」をテーマにした講演会にて、伏見版木活字と駿河版銅活字による印刷・出版事業を中心に、家康が江戸時代の印刷・出版文化の発展に大きく貢献したことを紹介しました。



講演会の様子

- オムニバス授業 静岡文化芸術大学 デザイン学部専門科目「インダストリアルグラフィックス」

日時	2022年12月6日(火)、13日(火)、20日(火)
場所	静岡文化芸術大学
担当	宗村泉
参加者数	70人
内容	本授業は外部講師によるオムニバス科目。3日間にわたり「日本の活版印刷の歴史」「図版印刷の歴史」「印刷博物館の設立と運営」といった印刷博物館のコンテンツと活動について紹介をしました。

- TeNQ×『チ。—地球の運動について—』展 講演会「天文学者≒印刷者」

日時	2023年1月14日(土) 11:00～12:00
場所	宇宙ミュージアムTeNQ
担当	石橋圭一
参加者数	37人
内容	地動説の普及をテーマに描いた漫画「チ。—地球の運動について—」とのコラボレーション展示をTeNQで開催したことに伴い、当館から講演会の実施と、活版印刷体験の協力を行いました。



- 活版歴史教室「活字のブランドPIN MARK」

日時	2023年1月21日(土) 16:00～17:00
配信方法	Zoom
担当	木谷正人
参加者数	71人
内容	「活版歴史教室」も2012年から今年で10年目となりました。今回は、活字が製造された長い歴史の中で一時期のみ出现过の活字の側面に刻印されたピンマークと鋳造所のお話をしました。とてもニッチなテーマでしたが、ピンマークを知らなかった方から、より詳しい情報を知りたいとご質問をいただいた熱心な方まで、多くの層の方に興味を持ってご参加いただきました。



- 板橋区教育委員会事務局生涯学習課「工都」印刷展講演会「印刷都市東京と近代日本」

日時	2023年1月29日(日) 10:00～12:00
場所	板橋区立教育科学館
担当	川井昌太郎
参加者数	19人
内容	板橋区教育委員会事務局生涯学習課主催による企画展「工都展 Ver.2 印刷産業」(会場：板橋区立中央図書館)が開催され、関連行事として本講演会が行われました。幕末から明治維新期にかけての社会の変化とその時代の印刷物を紹介し、同時代に日本の印刷がどのように変化し、東京が「印刷都市」としてどのような役割を果たしたのか、解説しました。

- FONTPLUS DAYセミナー Vol.45
「文字の歴史を再発見」知ってるようで意外と知らない
文字と印刷の関係

日時	2022年4月20日(水) 19:00～21:15
ゲスト	中西保仁、木谷正人
参加者数	255人
配信方法	Facebook Live
内容	フォントプラスが主催する書体やデザインにこだわる方々をターゲットにした「FONTPLUS DAYセミナー」オンライン生放送ライブにゲストとして参加しました。突撃インタビューなど面白い対談形式のセミナーで、印刷博物館の展示を画面越しに眺めながら、そのこだわりを語りました。



FONTPLUS DAYセミナーの告知サイト

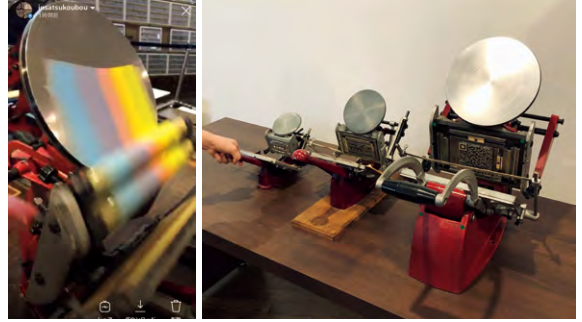
- ギャラリートーク
「地図と印刷」展
ニコニコ美術館

日時	2022年11月16日(水) 18時～生放送
会場	印刷博物館 展示室
来場数	21,183人
内容	ニコニコ美術館は、視聴者が美術館や博物館の中の展示会場を巡り、ギャラリートークに参加しているような体験をできるインターネット生配信の番組です。ライター・エディターの橋本麻里さんとともに当館学芸員が掛け合い話をしながら展示解説や見どころを紹介し、国内外の多くの方々に鑑賞いただきました。



- 印刷工房Instagram Live
第4回「アダナ印刷機編」

日時	2022年5月22日(日) 11:00～11:30
参加者数	31人
内容	英国製のホビー用印刷機Adanaを使用した印刷のデモンストレーション。



- いんぱくポッドキャスト

さまざまな情報をお届けするポッドキャスト「いんぱくポッドキャスト」は、ApplePodcast、Spotifyで視聴可能です。

今年度は、展示の制作エピソードや、講演会のアーカイブなど14本を発信しました。

2022年	
#20 4月7日	大人のための活版ワークショップ2021 活字をつくるアーカイブ
#21 5月22日	常設展オンライン解説「印刷の日本史02」アーカイブ
#22 6月4日	第2回印刷文化学会議アーカイブ Part1「本の歴史」
#23 6月11日	第2回印刷文化学会議アーカイブ Part2「本から眺める印刷メディアとコンテンツの興亡」
#24 6月27日	第2回印刷文化学会議アーカイブ Part3「本の過去・現在・未来」
#25 9月6日	マインツ・インパルス オンライン解説01「マインツインパルスの意義」
#26 9月30日	企画展「地図と印刷」のバックヤード その1
#27 10月14日	企画展「地図と印刷」のバックヤード その2
#28 11月11日	企画展「地図と印刷」のバックヤード その3
#29 11月18日	企画展「地図と印刷」のバックヤード その4
2023年	
#30 3月16日	企画展 地図と印刷 講演会「松平定信の外交-北の国から1792来航」アーカイブ
#31 3月28日	企画展 地図と印刷 講演会「絵図・地図が語る景観-景観研究への招待-」アーカイブ
#32 3月30日	世界のブックデザイン2021-22 トークショー「第55回造本装幀コンクールを振り返って」アーカイブ
#33 3月31日	常設展オンライン解説「印刷の世界史」アーカイブ 映像版

● きて、みて、刷って 昔のきっぷ—硬券印刷機印刷体験—

日時	2022年8月2日(火)～2022年9月2日(金) 期間中毎日15:00～15:30(開催日数31日) 2022年10月14日(金)～2022年10月16日(日) 期間中毎日15:00～15:30(開催日数3日)
場所	地下1階本展示室入口手前特設会場
参加者数	489人(34日間合計)
内容	昔の鉄道の乗車券・入場券を印刷する硬券印刷機を使い、鉄道開業150周年に合わせて印刷体験を開催しました。宮沢賢治『銀河鉄道の夜』にちなんだ駅名の印刷は、鉄道マニアの方だけでなく多くのお客様の注目を集めました。



展示場(硬券印刷機)全景



『銀河鉄道の夜』をモチーフにした硬券

● 「知ってるようで知らない!本のいろいろ」
あじろ綴じ製本ワークショップ「ポケットダイアリー」をつくろう!

日時	2022年9月18日(日)10:30～12:00
会場	印刷博物館 研修室
参加者数	6人
内容	本を綴じる際に使う材料は、糸、のり、針金の3つですが、あじろ綴じは折丁の背に切り込みを入れて、のりで綴じる製本方法です。このあじろ綴じで64ページのポケットダイアリーをつくるワークショップを行いました。



あじろ綴じワークショップの様子

● 「世界のブックデザイン2021-22」製本ワークショップ
ブックデザイン展の関連イベントとして、製本ワークショップを開催。参加者は、紙を折り、折丁を綴じ、表紙をつけるという一連の工程を自ら行いました。製本の仕組みを理解することで、各国の受賞図書を新たな視点で眺める機会にもなりました(各抽選10名・有料)。

協力	美篤堂+本づくり協会
会場	印刷博物館 研修室

初級「こうき綴じ」

日時	2023年3月18日(土)10:30～12:30
参加者数	8人
費用	材料・道具使用費：1,595円

中級「文庫本をハードカバーに」

日時	2022年3月18日(土)14:00～17:00
参加者数	7人
費用	材料・道具使用費：1,705円



講師のデモンストレーション

第3回印刷文化学会議

2023年2月18日(土)に「第3回印刷文化学会議」を開催しました。今回のテーマは「くらしと版画 長崎・富山・栃木にいきづく日本の心」。地域に根付く版画文化に注目し、江戸や上方を中心にみる日本印刷史とは異なる軸から日本の印刷文化について考えました。

イベントは2部構成で、各地域の版画の専門家による発表講演を行ったのち、当館顧問をモデレーターに加え、日常で親しまれた版画と人々との関わりについてパネルディスカッションを行いました。

昨年同様オンライン配信とともに、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じ会場にお客さまをお招きする、ハイブリッド形式での開催となりました。

発表講演1

「異国情緒あふれるお土産・長崎版画」
(長崎県)

植松有希

板橋区立美術館学芸員

鎖国時の日本における海外との窓口であった長崎は、オランダ船や唐船が行き交い、出島や唐人屋敷が設置されるなど、異国情緒が漂う街です。この地で18世紀半ばから幕末にかけてつくられた多様な判型の木版画は、長崎の街を想起させる独自の色づかひの合羽摺りで彩色されました。オランダや中国を中心とした異国の事物を画題とし、「判古」や「オランダさんの絵」などと呼ばれ、異国文化を知る手立てとして人々に親しまれ、今日では長崎版画の名で知られています。西洋版画から影響を受けた中国の蘇州版画をルーツにもち、独自の色使いとともに長崎の「和」「華」「蘭」(わからん)文化を体現しています。



植松有希氏 発表講演(長崎版画)

発表講演2

「売薬版画」(富山県)

坂森幹浩

富山市郷土博物館館長

「越中富山の薬売り」として全国に知られる富山売薬の売薬人が、江戸時代後期から得意先に配りはじめた進物として最初に登場したのが売薬版画です。富山の絵師と彫師によってつくられた浮世絵版画を指し、広告・宣伝ではなく他国売薬との差別化と、得意先との関係維持を目的としています。全国に無料配布されたため、その生産量は膨大で費用を抑えるために合羽摺りが採用されました。江戸・東京の浮世絵版画の垂流ともいえるものの、全国の人々に「進物」という形で手軽に版画を入手できる機会を創出し、江戸後期から明治にかけての浮世絵人気を下支えしました。



坂森幹浩氏 発表講演(売薬版画)

発表講演3

「佐野祝い絵」(栃木県)

藤田好三

佐野祝い絵研究者

栃木県西南部の佐野地方で親しまれた際物の一種で、明治から昭和にかけて下野の人々が育んだ民画が佐野祝い絵です。画題は初正月や初節句など、子どもの誕生を祝い、幸せな成長を願うものが多くみられます。時代とともに木版手彩色から多色刷り、石版多色刷り、オフセット印刷へと印刷方法も変化していきました。軸装することが特徴で、比較的安価な祝い掛軸を贈ることで地域で祝福しあいました。昭和30年代初頭に年間40万本の掛軸が生産された記録もありますが、際物ゆえに現存数が少なく、歴史の中で見捨てられつつある地方版画ともいえます。



藤田好三氏 発表講演(佐野祝い絵)



パネルディスカッション

パネルディスカッション

植松優希×坂森幹浩×藤田好三

モデレーター 樺山紘一 (印刷博物館 顧問)

発表講演を踏まえ、各版画の共通点や独自性、それを通して思うことについて、登壇者より意見をいただきました。また当時の各版画の呼び名を切り口に、地方版画が人々の日常の延長にあったことを確認しました。

これらの版画は生活に密着しているがゆえに、美術的価値があるものとしてみなされず、忘れられつつある一方、たとえ美術的価値が低くとも印刷が社会や文化に貢献した証であるともいえます。地域特有の版画文化はメインストリームに躍り出るところか、ほかにも埋没してきたものがあるのではないかという疑問が提起されるとともに、地方版画の果たした役割や機能を見直すことで、歴史的な人々の営みを後世に伝えていく意義について語られました。



当日は藤田氏コレクションの佐野祝い絵の実物を会場でご覧いただいた



テーマ	「くらしと版画 長崎・富山・栃木にいきづく日本の心」
開催日時	2023年2月18日(土) 13:00~16:00
会場	日本橋高島屋三井ビルディング 日本橋ホール
実施形態	会場とZoomウェビナーによるオンライン配信のハイブリッド開催
講師	植松有希(板橋区立美術館学芸員) 坂森幹浩(富山市郷土博物館館長) 藤田好三(佐野祝い絵研究者)
参加者数	合計94人(会場参加14人、オンライン参加80人)

タイポグラフィ研究

● 印刷工場の欧文書体アーカイブ進捗報告

印刷工場では、所蔵する活版印刷用の金属活字を研究・活用するため、デジタルアーカイブを進めています。このアーカイブを来館者の皆さまへ公開したものが、常設展示「印刷工場の欧文書体アーカイブ」です。これは、大型の活字書体年表の下に活字書体関連資料やより深く活字書体のことを学べるデジタルコンテンツを展示したものです。

今年度は、デジタルコンテンツの充実を目標に、「欧文書体関連人物データベース」と「欧文書体製作所データベース」を追加しました。当初公開していたのは「欧文書体データベース」のみで、これは基幹データベースの約4分の1程度の内容でした。今回の項目追加により約4分の3まで公開できるようになりました。また、個々のデータベースをリンクさせることで「欧文書体系譜図」という新たな活字書体の見方を楽しむことができるようになっています。

今後は、館内展示だけではなく公開活動を目指し、関連するネットワークの構築を目指していきたいと考えています。



印刷工場の欧文書体アーカイブ展示風景



欧文書体製作所データベース



欧文書体の系譜



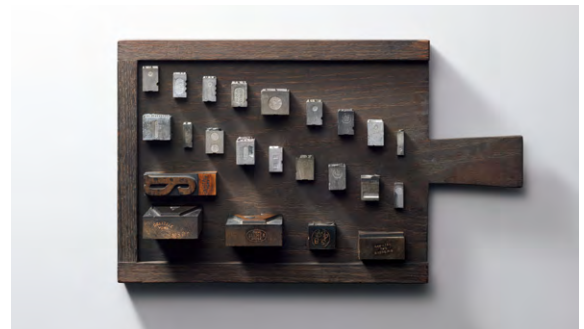
欧文書体関連人物データベース

● 活版歴史教室

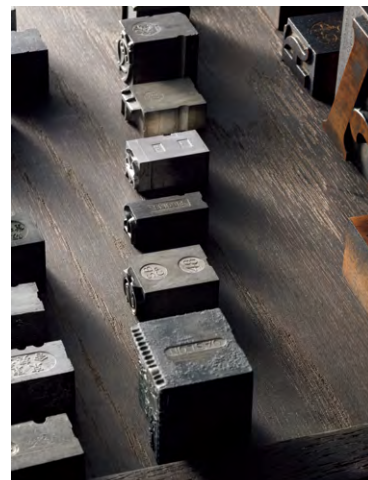
2023年1月21日(土)に「活字のブランドPIN MARK」と題して、活字の側面に刻印された貴重なピンマークと鋳造所のお話をオンラインで発信しました。収蔵活字の中でも、限られた鋳造機で限られた年代にだけ出現するピンマークを日本、欧米のそれぞれの鋳造所別に画像を表示しながら解説しました。また、ピンマークの窪みがどのように機能していたかを、印刷工場にある手回し鋳造機を実際に動かしながら映像で紹介しました。非常にニッチな内容でしたが、興味を持って視聴いただきました。これらのピンマークの調査資料・画像は展示「印刷工場の欧文書体アーカイブ」の製作所データベースの一部にも反映させ、来館者の方々にもご覧いただけるようにしています。



活版歴史教室の様子(オンライン)



代表的なピンマーク一覧



ピンマーク部分

REPORT ON FISCAL 2022

2022年度報告

印刷工房は、活版印刷技術の保存や伝承、研究活動を行っている施設です。工房見学ツアーや印刷体験を通した活版印刷の普及にも取り組んでいます。

● 常設イベント

毎週火曜日と水曜日に開催する「工房見学ツアー」では、インストラクターが印刷工房内の活字や機械を案内します。今年度は522名が参加しました。

毎週木曜日から日曜日、祝日に開催する「活版印刷体験」は、好きな言葉を活字で組み、カードなどを印刷するワークショップです。栞やコースター、グリーティングカードなどの作品づくりを行い、今年度は1,487名が参加しました。

コロナ禍でもお客様に安心して工房を利用していただくため、インストラクターは手袋を着用し、工房入室時の手指の消毒、体験終了後の植字台、道具類、手洗い場の消毒を徹底しています。



工房見学ツアーで配布する栞と活版印刷体験で制作できる作品



印刷工房の様子

● 大人のための活版ワークショップ2022

2012年度からはじまり、10回目を迎えた有料講座です。今年度は10月に「花形活字のレターセット」、12月に「冬の絵葉書」、2月に「和紙の名刺」、3月に「ガリ版メッセージカード」を開催しました。常設イベントでは触れる機会のない花形装飾活字や垂鉛凸版、謄写版印刷などを取り入れ、充実した内容となりました。各回多くのお客さまにご応募いただき、計31名が参加しました。



大人のための活版ワークショップ2022作品

● 団体・教育機関対応

印刷工房で見学・体験される団体のお客さまは、小学生から社会人まで多岐にわたります。学校の職場体験や企業の研修、生涯学習などさまざまな場面で活用いただき、今年度は237団体2,134名の方が参加しました。

● その他特別イベント

6月にトッパングループ従業員を対象とした活版印刷体験イベント、印刷工房OPEN HOUSEを開催し、40名の従業員が参加しました。

3月には、活版印刷の工房をもつ大学向けに、活版印刷の基礎とアダナの使い方講座を行い、武蔵野美術大学の学生3名がアダナ印刷機の設定から片付けまでを体験しました。

夏休み体験教室



● 活版印刷体験「ポストカードを印刷しよう」

カラフルな動物の絵柄が印刷されたハガキに、活字で名前を印刷する体験を実施。オリジナルの暑中・残暑見舞いが完成します。

実施日	2022年8月2日(火)～8月31日(水)の火・水
時間	1回目 10:30～10:50 2回目 10:40～11:00 3回目 10:50～11:10 4回目 11:00～11:20 5回目 11:10～11:30

参加者数 129人



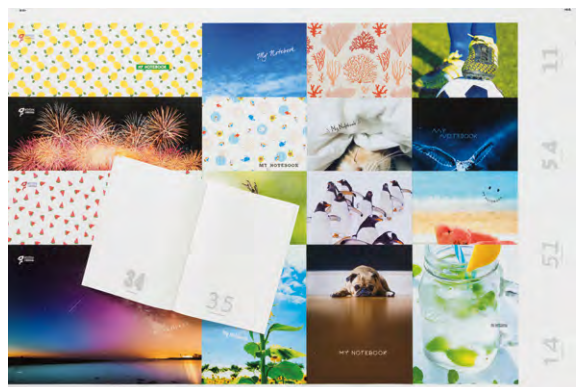
オリジナルポストカード

● 中綴じ製本体験「マイノートをつくろう」

最初に大きな紙を2枚折りたたんで本文を作ります。次に表紙でくるんでから、背をホッチキス留めします。最後に三方を断裁すると、B5判の本格的なノートが完成します。

実施日	2022年8月4日(木)～8月26日(金)の木・金
時間	1回目 10:30～10:50 2回目 10:50～11:10 3回目 11:10～11:30

参加者数 221人



表紙と本文

● 製本加工体験「ポップアップ絵本をつくろう」

色をぬり、ハサミで切りとり、両面テープを使って組み立てていきます。最後は、ページを開くと鳥たちが立ち上がるポップアップ絵本が完成します。

実施日	8月18日(木)
時間	14:00～15:30

参加者数 4人



「鳥のらくえん」

地域との交流活動

● 出前授業「印刷を知らう!」

対象	筑波大学附属桐が丘特別支援学校 小学校5年生、6年生
実施日	2022年6月28日(火) 10:40～12:25
場所	筑波大学附属桐が丘特別支援学校
内容	日本と世界の印刷の歴史や、活版印刷の仕組みに関する授業を実施しました。また「マイノートづくり」のデモンストレーションを通じ、製本のしくみや印刷書体の多様性に触れました。



授業風景

● 東京都立飛鳥高校インターンシップへの協力

対象	東京都立飛鳥高校 高校生
実施日	2022年8月26日(金) 10:00～16:00
場所	印刷博物館
内容	インターンシップ授業として4名の高校生に就労機会を提供しました。夏休み中の子どもを対象とした「マイノート」体験の手伝いでは、来館者にどのような姿勢で向き合えば喜んでいただけるか、各自考えながら授業に取り組んでくれました。

● 文の京ミュージアムネットワーク入館料助成キャンペーンへの参加協力

対象	文京区内在住者
実施日	2022年9月1日(木)～10月30日(日)
場所	印刷博物館
内容	文京区内在住者を対象に文の京ミュージアムネットワークに参加する区内の美術館・博物館・庭園の入館を助成するキャンペーンに参加協力をを行い、560人来館いただきました。

● 文京区立金富小学校との連携授業

対象	文京区立金富小学校 4年生、5年生
実施日	5年生：2022年10月12日(水)、27日(木)、11月11日(金)、17日(木) 4年生：2023年3月9日(木)、10日(金)
場所	印刷博物館
内容	2001年より連携授業が始まり、21回目を迎えました。4年生では活版印刷の基礎に触れ、5年生では本格的な作品づくりを行います。

5年生72名は「金富八景」と題し、新入生に向けて、学校の良いところや楽しい行事を紹介するはがきをつくりました。オンラインによるオリエンテーション授業のうち、班ごとにキャッチコピーや絵を考え、印刷工房で文選、植字、文字・樹脂版の印刷を体験しました。

4年生54名は、学芸員の解説による展示室、バックヤードの見学と、印刷工房での活版印刷体験を行いました。ひらがなの活字で名前を拾い、名刺を印刷しました。



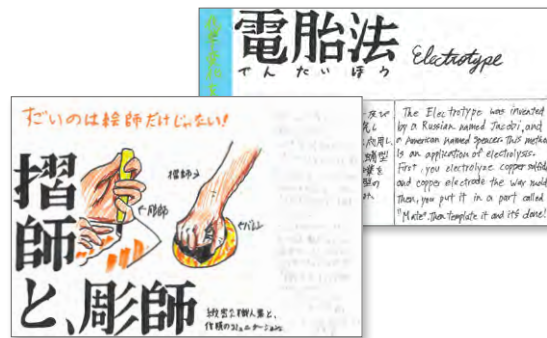
金富八景はがき(5年生)



名刺(4年生)

● 文京区立音羽中学校職場体験

対象	文京区立音羽中学校 2年生
実施日	2022年9月28日(水)、29日(木)
場所	印刷博物館
内容	博物館の取り組みや展示内容、学芸員の仕事について紹介し、司書の協力を仰ぎながら実際に展示キャプションづくりに挑戦しました。また、印刷工房で活版印刷を体験し、お客さま対応や、準備、片付けを実践しました。



生徒がつくったキャプション

● 文京ミュージズフェスタ2022への参加協力

対象	文京区民
実施日	2022年12月15日(木)
場所	文京シビックセンター
内容	2022年度の文京ミュージズフェスタは3年ぶりに、活版印刷機によってクリスマスカードをつくる出張体験で参加協力をを行い、169人に体験いただきました。



クリスマスカード

● 板橋区「工都」印刷産業展 出張ワークショップ

対象	小学生と保護者
実施日	2023年1月28日(土)
場所	板橋区立中央図書館
内容	午前と午後の2回開催で32名の方が参加しました。活版印刷の発明が世界をどう変えたのかをわかりやすく解説し、カラー印刷の仕組みがわかる、カラフルなカードをつくる活版印刷体験でお客さまに楽しんでいただきました。



ワークショップ風景



カラフルなカード

<p>● 産業文化博物館コンソーシアム</p> <p>産業文化博物館コンソーシアム(略称: COMIC (Consortium Of Museums for Industry and Culture))は、2008年3月に発足した産業系博物館による勉強会です。</p> <p>今年度で15年目に入りました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、特に前半はオンラインによる開催となりました。</p>	
<p>第78回 ケーススタディ(オンライン)</p> <p>「ガス事業150周年に向けたガスマジューリアムの取り組みについて」</p>	
実施日	2022年5月27日(金)
主催館	GAS MUSEUM がす資料館
参加館	i-muse IHI HISTORY MUSEUM、アドミュージアム東京、NHK放送博物館、オリンパスミュージアム、花王ミュージアム、花王エコラボミュージアム、GAS MUSEUM がす資料館、がすてなーに ガスの科学館、紙の博物館、S/PARKミュージアム、渋沢栄一記念財団、セイコーミュージアム銀座、セブン&アイ・ホールディングス 伊藤研修センター、田辺三菱製薬史料館、たばこと塩の博物館、地下鉄博物館、ツムラ漢方記念館、電気史料館、東書文庫、東芝未来科学館、東武博物館、トヨタ産業技術記念館、トヨタ博物館、ニュースパーク(日本新聞博物館)、物流博物館、紅ミュージアム、まほうびん記念館、ヤマトグループ歴史館 クロネコヤマトミュージアム、郵政博物館、容器文化ミュージアム、アサヒグループジャパン、KDDI MUSEUM、シチズン史料室、島津製作所 創業記念資料館、清水建設、タカラトミーアイビス、武田薬品工業京都薬用植物園、ダスキンミュージアム、トヨタ紡織、ニコンミュージアム、長谷工マンションミュージアム、ファンケル、MIZKAN MUSEUM、三菱みなとみらい技術館、UCCコーヒー博物館、ロマンスカーミュージアム *オブザーバーも含む (事務局)印刷博物館、トータルメディア開発研究所
内容	ガス事業150周年という節目の年であること、現在エネルギー業界は非常に大きな転機にあること、その中でガスマジューリアムはどのような活動をしていくのか、館全体の紹介とともにお話いただきました。

<p>第79回 ケーススタディ(オンライン)</p> <p>「KAMPOのヒ・ミ・ツを探る! ツムラ漢方記念館オンライン見学」</p>	
実施日	2022年7月28日(木)
主催館	ツムラ漢方記念館
参加館	アドミュージアム東京、NHK放送博物館、オリンパスミュージアム、花王ミュージアム、花王エコラボミュージアム、GAS MUSEUM がす資料館、紙の博物館、シチズン史料室、セイコーミュージアム銀座、セブン&アイ・ホールディングス 伊藤研修センター、田辺三菱製薬史料館、たばこと塩の博物館、地下鉄博物館、ツムラ漢方記念館、東書文庫、東芝未来科学館、東武博物館、トヨタ産業技術記念館、トヨタ内藤記念くすり博物館、ニュースパーク(日本新聞博物館)、物流博物館、紅ミュージアム、ヤマトグループ歴史館 クロネコヤマトミュージアム、郵政博物館、容器文化ミュージアム、アサヒグループジャパン、KDDI MUSEUM、島津製作所 創業記念資料館、清水建設、JAL SKY MUSEUM、武田薬品工業京都薬用植物園、ダスキンミュージアム、TDK歴史みらい館、トヨタ紡織、ニコンミュージアム、長谷工マンションミュージアム、ファンケル、Bridgestone Innovation Gallery、UCCコーヒー博物館、ロマンスカーミュージアム *オブザーバーも含む (事務局)印刷博物館、トータルメディア開発研究所
内容	会社の概要紹介の後、ライブ中継に切り替わり、漢方記念館からは漢方と漢方医学の歴史について、薬草見本園からはいくつかの薬草をご紹介します。全体を通して、漢方がどのようなものかよく理解できました。
<p>第80回 ケーススタディ</p> <p>企画展「地図と印刷」見学/「博物館法改正」日本博物館協会・半田専務理事講話</p>	
実施日	2022年11月25日(金)
主催館	印刷博物館
参加館	i-muse IHI HISTORY MUSEUM、アドミュージアム東京、NHK放送博物館、オリンパスミュージアム、花王ミュージアム、花王エコラボミュージアム、GAS MUSEUM がす資料館、紙の博物館、S/PARKミュージアム、シチズン史料室、渋沢史料館、島津製作所 創業記念資料館、セイコーミュージアム銀座、世界のカバン博物館、セブン&アイ・ホールディングス 伊藤研修センター、竹中大道具館、ダスキンミュージアム、田辺三菱製薬史料館、たばこと塩の博物館、東書文庫、東芝未来科学館、東武博物館、トヨタ産業技術記念館、ニュースパーク(日本新聞博物館)、長谷工マンションミュージアム、Bridgestone Innovation Gallery、紅ミュージアム、まほうびん記念館、ヤマトグループ歴史館 クロネコヤマトミュージアム、郵政博物館、アサヒグループジャパン、KDDI MUSEUM、清水建設、JAL SKY MUSEUM、ゼンリンミュージアム、タカラトミーアイビス、トヨタ紡織、ニコンミュージアム、三菱みなとみらい技術館、UCCコーヒー博物館、ロマンスカーミュージアム *オブザーバーも含む (事務局)印刷博物館、トータルメディア開発研究所
内容	リアルとオンライン併用で開催しました。2020年10月の印刷博物館のリニューアルの説明、企画展「地図と印刷」の見学・解説の後、日本博物館協会の半田専務理事から博物館法の改正について講話をしていただきました。

第81回 | 勉強会

「最近のコロナ感染症対策について、その他」

実施日	2023年1月27日(金)
主催館	印刷博物館
参加館	i-muse IHI HISTORY MUSEUM、アドミュージアム東京、NHK放送博物館、オリンパスミュージアム、花王ミュージアム、花王エコラボミュージアム、GAS MUSEUM がす資料館、紙の博物館、KDDI MUSEUM、S/PARKミュージアム、シチズン史料室、渋沢史料館、島津製作所 創業記念資料館、セイコーミュージアム銀座、世界のカバン博物館、セブン&アイ・ホールディングス 伊藤研修センター、竹中大工道具館、ダスキンミュージアム、田辺三菱製薬史料館、たばこと塩の博物館、地下鉄博物館、東書文庫、東芝未来科学館、東武博物館、トヨタ産業技術記念館、ニュースパーク(日本新聞博物館)、長谷工マンションミュージアム、物流博物館、紅ミュージアム、まほうびん記念館、ヤマトグループ歴史館 クロネコヤマトミュージアム、郵政博物館、容器文化ミュージアム、ロマンスカーミュージアム、清水建設、JAL SKY MUSEUM、ゼンリンミュージアム、タカラトミーアイビス、ファンケル、MIZKAN MUSEUM、三菱みなどみらい技術館 *オブザーバーも含む (事務局)印刷博物館、トータルメディア開発研究所

内容 事前にCOMICメンバーより案を募集し、「最近のコロナ感染症対策について」「学芸員の採用、育成、業務について」「アーカイブズについて」の3つのテーマで勉強会を実施しました。リアルとオンラインの併用で行いました。

第82回 | ケーススタディ

「銀座への移転の経過と変化」

実施日	2023年3月24日(金)
主催館	セイコーミュージアム銀座
参加館	アドミュージアム東京、NHK放送博物館、花王ミュージアム、花王エコラボミュージアム、GAS MUSEUM がす資料館、紙の博物館、S/PARKミュージアム、渋沢史料館、セイコーミュージアム銀座、世界のカバン博物館、セブン&アイ・ホールディングス 伊藤研修センター、ダスキンミュージアム、田辺三菱製薬史料館、たばこと塩の博物館、地下鉄博物館、東書文庫、東芝未来科学館、東武博物館、日本郵船歴史博物館、物流博物館、紅ミュージアム、まほうびん記念館、郵政博物館、容器文化ミュージアム、ロマンスカーミュージアム、清水建設、トヨタ紡織 *オブザーバーも含む (事務局)印刷博物館、トータルメディア開発研究所

内容 なぜ東向島から銀座へ移転したのか、移転によって何が変わったのか、現在の課題は何か、興味深いお話の後、館内をご案内いただきました。スペースの関係から、前半組と後半組の2回開催で行いました。



セイコーミュージアム銀座見学の様子

2022年度 人文知コミュニケータ養成プログラム

実施日	2022年11月15日(火)、16日(水)
場所	印刷博物館
連携先	大学共同利用機関法人人間文化研究機構
参加者数	19人
内容	「社会と研究現場をつなぐ」ことを期待されたコミュニケータの皆さまの企業研修を2日間にわたってお手伝いしました。



プログラム実施風景

実践女子学園との包括連携協定に基づく諸活動

実施日	2022年6月3日(金)、7月1日(金)、7月8日(金) いずれも15:10~16:50
場所	実践女子大学渋谷校舎
連携先	実践女子大学文学部国文学科2年生
参加者数	66人
内容	リニューアルしたものの来館者数が伸び悩む現状を解決すべく、来館状況、外部環境の分析を通して潜在的なお客さまの来館施策を考察しました。その際、当館の年間活動計画を分析することで、より実践的なキャリアプランニング授業となりました。ほかにも中学生による見学ツアーや高校生向けSDGs夏休み特別授業、日野校舎での臨床美術授業など多岐にわたる協力関係を築くことができました。



当館見学の様子

- 紙の博物館との合同ワークショップ
● 漉く・刷る 名刺 和紙漉きから活版印刷まで

実施日	2022年11月23日(水・祝)、27日(日)
場所	紙の博物館、印刷博物館
連携先	紙の博物館
参加者数	7人
内容	紙と印刷を知る、2日間の合同ワークショップ。紙の博物館で和紙を漉き、印刷博物館で活字を使って印刷して、紙から印刷まで手づくりの名刺づくりを行いました。2015年度より連携が始まり、近年はコロナ禍で休止していましたが、5回目の開催を迎えることができました。



紙漉き体験の様子



活版印刷体験の様子



名刺

- 静岡市歴史博物館へ駿河版銅活字レプリカ製作・展示に協力

場所	静岡市歴史博物館
内容	2023年1月にグランドオープンした静岡市歴史博物館において、当館が所蔵する駿河版銅活字(重要文化財)のレプリカを展示するために、静岡市より活字のレプリカ製作の依頼を受けて、協力しました。

- 宇宙ミュージアムTeNQへの協力
● TeNQ×『チ。—地球の運動について—』展

印刷博物館コラボ講演会&活版印刷体験	
日時	2023年1月14日(土)、15日(日)
場所	宇宙ミュージアムTeNQ
連携先	宇宙ミュージアムTeNQ
参加者数	講演会37人 活版印刷体験133人
内容	14日(土)第1部では、講演会「天文学者≠印刷者」と、星座柄の葉を印刷する活版印刷体験、第2部と15日(日)には、TeNQ×チ。コラボ展柄の葉を印刷する活版印刷体験を行いました。



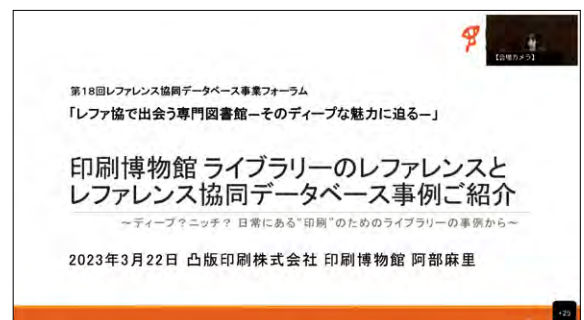
活版印刷体験の様子



星座柄の葉

- レファレンス協同データベース フォーラム 参加館報告
● 第18回「レファ協で出会う専門図書館—そのディープな魅力に迫る—」参加館報告

日時	2023年3月22日(水)
場所	国立国会図書館 関西館(オンライン)
内容	国立国会図書館主催の「第18回レファレンス協同データベース事業フォーラム」において、当館ライブラリーの収蔵資料の特色や、当館のレファレンス事例、対応状況などを紹介しました。



フォーラム発表の様子

印刷博物館では収蔵資料約7万5千点と、ライブラリーの図書資料約7万点の合計約14万5千点の資料を所蔵しています。収蔵資料は展示室に展示する資料で、展示していないときは収蔵庫で保管しています。基本的には展示以外での公開はしていません。一方でライブラリーは、一般のお客様さまの閲覧希望に応じて、書庫にある図書資料を司書がお出しして閲覧に供しています。

資料の取り扱いは異なりますが、どちらも末永く資料を保存できるよう、保存環境の整備と、資料の修復に取り組んでいます。

● 環境の整備

● 1. 環境調査

年に1回専門業者に依頼し、収蔵庫や書庫、展示室やバックヤードも含めた館内の害虫のモニタリング調査を実施しています。

● 2. 清掃

学芸員が手分けをして、定期的に収蔵庫内の清掃を実施しています。棚の上や資料の上の塵払い、床の掃除機掛けを行っています。手の届かない天井や壁、扉の隅、換気口などは専門業者に清掃を依頼しています。

● 資料の修復

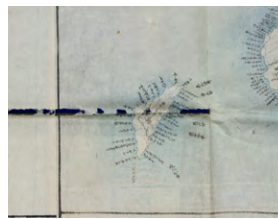
● 1. 収蔵資料

- 修復：3点
- 主な資料

「官板実測日本地図」のうち
 「山陰山陽南海西海」(資料No.77508)
 「蝦夷諸島」(資料No.77509)
 「北蝦夷」(資料No.77510)

状態 「官板実測日本地図」は約160年前の大判の地図で、表紙が付けられ折りたたむ仕様となっている。そのため、何度も広げたり畳まれたりした折り目の部分が弱り、虫損も見られた

処置 古色に染めた和紙を使用し、欠損の大きな部分は和紙を2枚ほど重ねて貼る



修復前



修復後

● 2. ライブラリー資料

- 修復：46点
- 主な資料

『有価証券のできるまで』凸版印刷、1940年(資料No.1029202)

状態 表紙外れ、サビ、パラフィン紙4枚綴じ外れ

処置 サビ除去して麻糸で綴じ直し パラフィン紙欠損部分と和紙で補強



修復前



修復後

● 新規登録蔵書数

期間：2022年4月～2023年3月	(冊)
和書	527
洋書	112
和雑誌	926
洋雑誌	88
合計	1,653

● 利用統計

- ・開室日数：286日
- ・閲覧者：477人
- ・書庫出納：1,335冊
- ・レファレンス：56件
- ・複写申込：22件
- ・WebOPAC利用：7,687件

● 見学・研修対応、取材対応

- ・10月21日(金) 国立国会図書館

● 寄贈者

● 1. 機関・団体

- ・国内(五十音順)、法人名および法人格省略

アイヌ民族文化財団、アイワード、朝日新聞出版社、アドミュージアム東京、アドミュージアム東京ライブラリー、天草市立キリシタン館、アルタイル、あるっく社、イースト・プレス、INAXライブミュージアム、伊能忠敬記念館、岩手県立博物館、岩手県立美術館、印刷学会出版部、印刷工業会、印刷図書館、宇都宮美術館、海の見える杜美術館、うらわ美術館、ABCアーク、NHK出版、NHK放送博物館、大阪国際児童文学振興財団、太田記念美術館、おりがみ会館、学習院大学史料館、学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻事務所、学研、角川文化振興財団、神奈川大学日本常民文化研究所非文字資料研究センター、金沢湯涌夢二館、鹿沼市立川上澄生美術館、貨幣博物館、紙の博物館、かみゆ歴史編集部、川崎市市民ミュージアム、河出書房新社、機械振興協会、企業メセナ協議会、切手の博物館、岐阜県印刷工業組合、ギャラリーステーション、汲古書院、京都工芸繊維大学 美術工芸資料館、京都府印刷工業組合、共立女子大学博物館、クマヒラ・ホールディングス、群馬県立近代美術館、慶應義塾大学アート・センター、慶應義塾大学三田メディアセンター、経済広報センター、工作舎、高知県立坂本龍馬記念館、交通新聞社、高野山霊宝館、郡山市立美術館、国際浮世絵学会、国文学研究資料館、国立印刷局 お札と切手の博物館、国立工芸館、国立国会図書館、国立新美術館、国立西洋美術館、国立ハンセン病資料館、国立歴史民俗博物館、埼玉県印刷工業組合、埼玉県立近代美術館、さいたま市岩槻人形博物館、埼玉新聞、佐倉市立美術館、三栄、産経新聞社、三オブックス、サントリー美術館、滋賀県立琵琶湖文化館、紙業タイムス社、静岡市東海道広重美術館、静岡市美術館、静岡市歴史博物館、渋沢栄一記念財団、渋沢史料館、思文閣出版、出版文化産業振興財団、春秋社、小学館、女子美術大学／女子美術大学短期大学部、女子美術大学美術館、書物の歴史と保存修復に関する研究会、すみだ北斎美術館、青春出版社、青土社、セゾン文化財団、せたがや文化財団 生活工房、仙

台市博物館、宣伝会議、全日本印刷工業組合連合会、専門図書館協議会、SOMPO美術館、台東区立朝倉彫塑館、台東区立中央図書館、大東文化大学、タイポグラフィ学会、竹中大工道具館、たばこと塩の博物館、玉川大学教育博物館、多摩市教育委員会、たましん美術館、ちひろ美術館(安曇野・東京)、中日新聞社、調布市武者小路実篤記念館、津山洋学資料館、DNP文化振興財団、帝京大学博物館、帝国書院、帝国データバンク史料館、天理大学附属天理参考館、東京家政大学博物館、東京藝術大学美術学部、東京工芸大学 写大ギャラリー、東京大学史料編纂所、東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター、東京大学附属図書館、東京都江戸東京博物館、東京都教育庁地域教育支援部管理課、東京都渋谷公園通りギャラリー、東京都写真美術館、唐招提寺、東武博物館、稲門フィラテリー事務局、徳川記念財団、都市出版、豊島区立郷土資料館、豊島区立中央図書館、鳥取市歴史博物館やまびこ館、トッパン友の会、富山県美術館、トヨタ産業技術記念館、内藤記念くすり博物館、長崎県広報課、長崎歴史文化博物館、中津市歴史民俗資料館分館 大江医家史料館、名古屋市蓬左文庫、成田山文化財団、西尾市岩瀬文庫、二松學舎大学日本漢学研究センター、日経サイエンス社、日報ビジネス、日本印刷技術協会、日本印刷産業機械工業会、日本印刷産業連合会、日本近代文学館、日本グラフィックデザイン協会、日本芸術文化振興会、日本工業大学 工業技術博物館、日本出版クラブ、日本女子大学、日本女子大学成瀬記念館、日本書籍出版協会、日本タイポグラフィ協会、日本図書設計家協会、日本博物館協会、日本パッケージデザイン協会、日本ビジネス出版、日本フォーム印刷工業連合会、ニューブリテンティング、沼津郷土史研究談話会、練馬区立美術館、白泉社、万博学、兵庫県印刷工業組合、平塚市博物館、PHOENIX(木材・合板博物館)、物流博物館、文京アカデミー、文京区観光協会、文京区立森鷗外記念館、文京ふるさと歴史館、文生書院、ベネッセコーポレーション、便利堂、北海道印刷工業組合、北海道博物館、北海道立帯広美術館、ホトギス社、ポーラ美術館、マガジンハウス、町田市立国際版画美術館、町田市立自由民権資料館、松戸市立博物館友の会、三重県総合博物館、三鷹市美術ギャラリー、三鷹市山本有三記念館、三井記念美術館、光村印刷、武蔵大学、武蔵野美術大学、武蔵野美術大学 美術館・図書館、明治大学大学院、明治大学図書館、明治大学平和教育登戸研究所資料館、目黒寄生虫館、目黒区美術館、郵政博物館、横浜市歴史博物館、横浜都市発展記念館・横浜開港資料館、横浜みなと博物館、横浜ユーラシア文化館、吉川弘文館、吉村昭記念文学館、米沢市上杉博物館、理想科学工業、立教学院展示館、和歌山県立近代美術館、早稲田アカデミー

- ・海外(漢字、アルファベット順)

Donga Science、Gutenberg Museum、International Association Printing Museums、Metropolitan Museum of Art、Reaktion Books Ltd.、Stiftung Buchkunst、World Jikiji Culture Association

● 2. 個人(五十音順、敬称略)

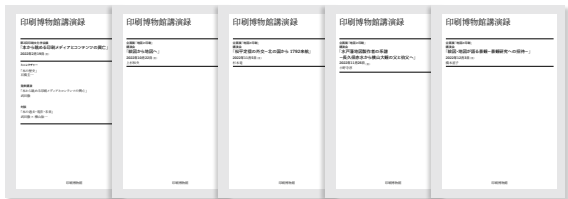
安形麻理、阿部亮太、飯島章仁、井上卓哉、植松有希、エドワード・E・タニグチ、小川義博、海田俊一、木越俊介、最所篤子、齊田健吾、坂森幹浩、下園知弥、菅野洋人、田中雄一郎・田中園子、出口智之、寺山祐策、富田修二、中西あきこ、野村悠里、林進、福田泰弘、藤田好三、松浦広、松原史、雪嶋宏一

印刷博物館発行物

- 印刷博物館ニュース[第85、86、87、88号]
印刷博物館の活動へのより深いご理解とともに展示に対しても興味を深めていただくための広報ツールとして『印刷博物館ニュース』を発行しました。



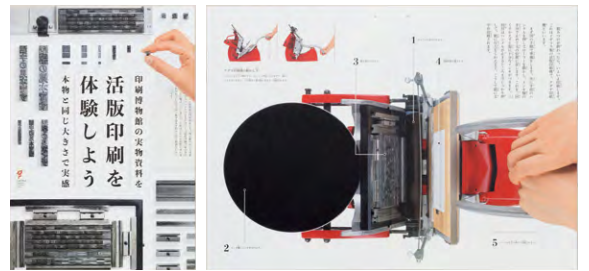
- 印刷博物館講演録
印刷博物館主催のシンポジウムや講演会を収録した講演録を発行しました。



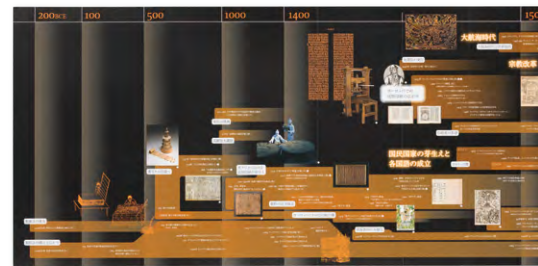
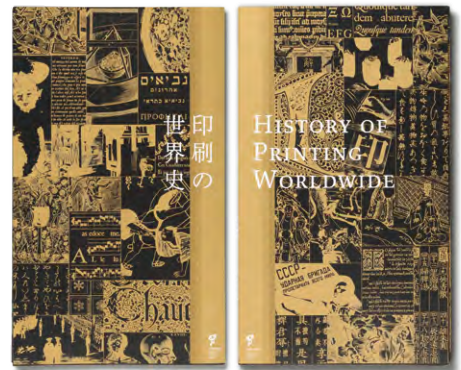
- 第2回印刷文化学会議「本から眺める印刷メディアとコンテンツの興亡」
企画展「地図と印刷」
● 講演会「絵図から地図へ」
● 講演会「松平定信の外交—北の国から1792来航」
● 講演会「水戸藩地図製作者の系譜—長久保赤水から横山大観の父と伯父へ」
● 講演会「絵図・地図が語る景観—景観研究への招待—」



- 『活版印刷を体験しよう—印刷博物館の実物資料を本物と同じ大きさで実感』
活版印刷の道具や印刷機を実物大で再現し、活版印刷を「疑似体験」できるA3判の書籍です。



- 『印刷の世界史』(バイリンガル)
お客さまから数多くのリクエストをいただき発行しました。常設展の年表「印刷の世界史」をお手元でご覧いただけます。



● 団体来館者一覧

2022年	4月	2	(土)	子ども国語教育学会	7月	1	(金)	山脇美術専門学校
		5	(火)	株式会社 加藤文明社印刷所		2	(土)	共立女子大学建築・デザイン学科
				瀬味証券印刷株式会社		7	(木)	印刷工業会
				東京都印刷工業組合		10	(日)	駒澤大学
		6	(水)	当矢印刷株式会社		16	(土)	東京経済大学
		7	(木)	株式会社田中紙工		17	(日)	大妻女子大学比較文化学部
				日経印刷株式会社		20	(水)	武蔵野美術大学芸術文化学科研究室
		8	(金)	新生紙パルプ商事株式会社		22	(金)	印刷工業組合部会
		13	(水)	株式会社雄進印刷		27	(水)	東洋美術学校書誌学講座
		14	(木)	東洋美術印刷株式会社		28	(木)	日本大学理工学部学芸員課程
		15	(金)	株式会社帆風		29	(金)	渋谷教育学園幕張高等学校
		19	(火)	T8 ティーエイト		30	(土)	緑青会
				寿精版タイポグラフィ研究会	8月	3	(水)	東京都立総合芸術高等学校
		22	(金)	日本プリンティングアカデミー		4	(木)	東京都立中央城北職業能力開発センター
		23	(土)	全国通訳案内士 研修		5	(金)	実践女子学園高等学校図書委員
		26	(火)	東洋美術学校				女子聖学院中学校高等学校
		27	(水)	東京都立中央城北職業能力開発センター		9	(火)	日本女子大学博物館実習
5月	6	(金)	東京都立工芸高等学校		26	(金)	ハイデルベルグ・ジャパン株式会社	
	8	(日)	武蔵野市郷土史会		31	(水)	文京区青少年プラザb-lab	
	11	(水)	専修大学武田徹ゼミ	9月	9	(金)	日本知的財産協会	
	14	(土)	桑沢デザイン研究所		21	(水)	東京学芸大学附属竹早小学校	
	18	(水)	阿佐ヶ谷美術専門学校		30	(金)	ルネサンスデザイン美容専門学校	
	19	(木)	早稲田大学教育学部博物館実習	10月	5	(水)	東京ミドルワークチャレンジ事務局	
	20	(金)	女子美術大学ヴィジュアルデザイン専攻4年		6	(木)	法政大学歴史地理学研究グループ	
	24	(火)	法政大学デザイン工学部		12	(水)	聖徳大学文学部	
	26	(木)	早稲田大学国際教養学部				宝塚大学	
	28	(土)	神奈川大学国際日本学部		22	(土)	駿河台大学	
			貞静学園高等学校文芸部		26	(水)	お茶の水女子大学比較歴史学コース	
6月	4	(土)	実践女子大学				多摩美術大学総合デザイン学科	
	10	(金)	自由学園図書館	11月	5	(土)	溝活版分室	
	11	(土)	大東文化大学		8	(火)	日本女子大学附属豊明小学校	
	14	(火)	東洋大学		9	(水)	仙台白百合学園小学校	
	18	(土)	東京都立大学				武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科	
	22	(水)	ベストリハ早稲田		11	(金)	バイオニア労働組合連合会	
	23	(木)	自由な学び場ヒルネット		12	(土)	日本色彩学会	
	24	(金)	豊島岡女子学園地歴部		16	(水)	岩手県立産業技術短期大学 産業デザイン科	
			明治大学博物館実習		24	(木)	千葉デザイナー学院	
	25	(土)	学習院大学博物館実習クラス				日本デザイン福祉専門学校	
			昭和女子大学博物館実習		25	(金)	アークアカデミー新宿校	
	29	(水)	日本大学大学院芸術学研究科				文化学園大学グラフィック・プロダクト デザインコース	

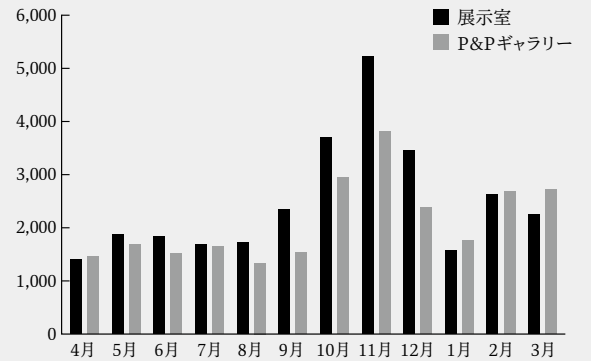
● 入館者データ

	26 (土)	駿河台大学メディア情報学部
	27 (日)	ちゃらぼこ散歩会
	29 (火)	一般財団法人日本地図センター 地図倶楽部
12月	3 (土)	中央学院大学商学部
	8 (木)	山口県立大津緑洋高等学校
	17 (土)	クラブツーリズム
	21 (水)	東京国立博物館ボランティアOB/OG
	22 (木)	東京デザイン専門学校
2023年 1月	13 (金)	東京学芸大学博物館ゼミ
	14 (土)	特定非営利活動法人SLC 文教大学国際学部国際観光学科
	17 (火)	三原市立第三中学校
	18 (水)	一般社団法人日本グラフィックサービス 工業会
	21 (土)	共立女子大学大学院書誌学研究
	22 (日)	斯道文庫講座
	26 (木)	早稲田大学教育学部石上ゼミ
	27 (金)	文京区立音羽中学校1年
	28 (土)	よみうりカルチャー
	29 (日)	秋田公立美術大学コミュニケーション デザイン専攻
2月	1 (水)	大分県立芸術文化短期大学
	2 (木)	中央区立銀座中学校
	8 (水)	鹿児島県曾於市議会広報等調査 特別委員会
	15 (水)	専門学校日本デザイナー学院
	16 (木)	岐阜女子大学
	22 (水)	株式会社アリス館
	23 (木・祝)	楽学散歩
	24 (金)	読書感想画コンクール受賞者見学会
3月	2 (木)	城西国際大学
	10 (金)	葛飾デザイン塾
	16 (木)	手作り科学館Exedra
	25 (土)	法政大学
	26 (日)	みんちゃれ彩

*新型コロナウイルス感染症対策のため、団体来館者の受け入れは人数を制限するなどの対応を行いました

*同一団体が複数回来館の場合は初回分を掲載するなど、調整しています

		展示室	P&Pギャラリー
2022年	4月	1,405	1,452
	5月	1,877	1,683
	6月	1,841	1,509
	7月	1,684	1,646
	8月	1,718	1,337
	9月	2,342	1,540
	10月	3,702	2,954
	11月	5,220	3,804
	12月	3,459	2,374
2023年	1月	1,574	1,763
	2月	2,625	2,678
	3月	2,254	2,722
計(人)		29,701	25,462
各月平均(人)		2,475	2,122



- SNSデータ

- 印刷博物館

- Twitter | <https://twitter.com/PrintingMuseumT> | フォロワー数(2023年3月31日現在) : 11,473
- Instagram | <https://www.instagram.com/printingmuseumtokyo/> | フォロワー数(2023年3月31日現在) : 3,070
- Facebook | <https://www.facebook.com/PrintingMuseumTokyo> | フォロワー数(2023年3月31日現在) : 2,222

		Twitter	Instagram			Facebook		
		ツイート数	投稿	ストーリーズ	ライブ	リール	投稿	
2022年	4月	73	7	4	0	0	12	
	5月	66	9	3	0	0	18	
	6月	68	4	7	0	0	7	
	7月	40	2	0	0	0	5	
	8月	18	5	0	0	0	4	
	9月	81	14	9	0	0	13	
	10月	82	28	2	0	0	28	
	11月	80	26	0	0	0	26	
	12月	108	10	0	0	0	14	
	2023年	1月	57	6	3	0	0	8
		2月	72	15	13	0	0	22
		3月	55	4	0	0	0	4
合計		800	130	41	0	0	161	

- 印刷工房

- Twitter | <https://twitter.com/insatsukoubou> | フォロワー数(2023年3月31日現在) : 3,690
- Instagram | <https://www.instagram.com/insatsukoubou/> | フォロワー数(2023年3月31日現在) : 1,260

		Twitter	Instagram				
		ツイート数	投稿	ストーリーズ	ライブ	リール	
2022年	4月	46	7	17	0	5	
	5月	54	8	20	1	2	
	6月	41	5	10	0	5	
	7月	46	8	16	0	4	
	8月	47	9	14	0	5	
	9月	29	6	14	0	5	
	10月	49	9	16	0	3	
	11月	42	7	12	0	3	
	12月	35	7	11	0	4	
	2023年	1月	20	5	13	0	4
		2月	11	5	7	0	2
		3月	13	4	6	0	4
合計		433	80	156	1	46	

- 新規収蔵資料
*代表的なもの
- 1. 購入
 - ・「新訂万国全図」
 - ・『三国通覧図説』
 - ・慶長古活字版『拾芥抄』
 - ・ *Historie de l'Art du Japon*
 - ・ *The Charming Views in The land of Ths Rising Sun*
- 2. 寄贈
 - ・ 太田徹也氏より『桂離宮』他 18点
 - ・ 佐伯誠氏より 印刷関連切手 449点
 - ・ 阿部久美子氏より『学問ノスゝメ』他版木 8枚
 - ・ 菊地和則氏より 木口木版作品 370点
 - ・ オノウエ印刷より 写真植字機 4台
 - ・ 田中松太郎氏遺族より 初期写真製版資料
 - ・ 林敬子氏、尾形陽子氏、金子恭子氏より「林進コレクション」52点
- 他施設への出展協力
- 「理想の書物—英国19世紀挿絵本からプライヴェート・プレスの世界へ—」展
会場：群馬県立近代美術館
会期：2022年9月17日(土)～11月13日(日)
貸出資料：19点
 - ・ *The English Bible Vol.1～5* (『英語聖書』)
 - ・ *Tutte le Opere* (『ダンテ著作集』)
 - ・ *The well at the world's end* (『世界のはての泉』) 他
- 「記録する眼 豊穰の時代 明治の画家 亀井至一、竹二郎兄弟をめぐる人々」展
会場：郡山市立美術館
会期：2022年11月3日(木・祝)～2023年1月9日(月・祝)
貸出資料：1点
 - ・ 『観古図説草稿本』
- 「活字 近代日本を支えた小さな巨人たち」展
会場：横浜市歴史博物館
会期：2022年12月10日(土)～2023年2月26日(日)
貸出資料：5点
 - ・ 君塚樹石、直彫り金属種字二号
 - ・ 安藤末松、木彫り種字(箱)
 - ・ 安藤末松、使用ルーベ
 - ・ 安藤末松、使用彫刻刀
 - ・ 安藤末松、木彫り種字一式



君塚樹石、直彫り金属種字二号

● テレビ・ラジオ

放送日	番組名	放映局	放送内容
2022年	5月28日	ぐるり東京江戸散歩	TOKYO MX 取材協力
	9月24日	カバン持ちさせてください!	TBS 「地図と印刷」
	10月24日	GOOD NEIGHBORS	J-WAVE 「地図と印刷」
	11月3日	垣花正あなたとハッピー	ニッポン放送 印刷博物館、印刷工房紹介
	12月3日	マイあさ	NHKラジオ 「地図と印刷」
	12月13日	GOOD NEIGHBORS	J-WAVE 「世界のブックデザイン2021-22」
	12月24日	ぐるり東京江戸散歩	TOKYO MX 取材協力
2023年	1月17日	Blue Ocean	TOKYO FM 「世界のブックデザイン2021-22」
	2月10日	しろ旅	NHK BSプレミアム 当館収蔵品「駿河版銅活字」複製
	3月29日	謎解き伝説のミステリー	テレビ朝日 取材協力

● 新聞

発行日	新聞名	号	掲載内容
2022年	5月7日	日本経済新聞社	夕刊 印刷博物館紹介
	7月26日	読売新聞	夕刊 当館収蔵品「駿河版銅活字」
	8月30日	中国新聞	「知ってるようで知らない! 本のいろいろ」
	9月1日	京都新聞	「知ってるようで知らない! 本のいろいろ」
	9月2日	岩手日報	「知ってるようで知らない! 本のいろいろ」
	9月4日	下野新聞	「知ってるようで知らない! 本のいろいろ」
	9月5日	神戸新聞	「知ってるようで知らない! 本のいろいろ」
	9月5日	長崎新聞	「知ってるようで知らない! 本のいろいろ」
	9月17日	日本経済新聞	「地図と印刷」
	10月10日	島根日日新聞	「地図と印刷」
	10月10日	北羽新報	「地図と印刷」
	10月10日	四国新聞	「地図と印刷」
	10月13日	山形新聞	「地図と印刷」
	10月15日	山口新聞	「地図と印刷」
	10月17日	デーリー東北	「地図と印刷」
	10月20日	神戸新聞	「地図と印刷」
	10月29日	岩手日日	「地図と印刷」
	10月29日	日本経済新聞	印刷博物館紹介
	11月8日	河北新報	「地図と印刷」
	12月2日	読売新聞	「地図と印刷」
12月13日	朝日新聞	夕刊 「世界のブックデザイン2021-22」	
2023年	1月7日	中日新聞	当館収蔵品「駿河版銅活字」、取材協力
	1月10日	朝日新聞	ミュージアムショップグッズ・駿河版活字シュガー
	3月4日	産経新聞	当館収蔵品ゲーテンベルク「42行聖書原葉」
	3月17日	京都新聞	国立国会図書館専門図書館フォーラム当館司書参加
	3月25日	毎日新聞	「世界のブックデザイン2021-22」

● 雑誌

発行日	雑誌名	号	掲載内容
2022年	3月31日	Intelligence	No.22 当館収蔵品「サクラビールポスター」
	4月	チャレンジ5年生 未来発見! BOOK	2022年4月号 マイクロブック
	4月24日	日経デザイン	2022年5月号 「グラフィックトライアル2022」
	5月1日	コマーシャル・フォト	2022年5月号 「グラフィックトライアル2022」
	5月24日	日経デザイン	2022年6月号 「グラフィックトライアル2022」

5月25日	ラジオリフ	2022年6月号	印刷博物館紹介	
5月27日	男の隠れ家	2022年7月号	印刷博物館紹介	
6月1日	コマーシャル・フォト	2022年6月号	「グラフィックトライアル2022」	
6月10日	アイデア idea	2022.7 No.398	「グラフィックトライアル2022」	
6月24日	日経デザイン	2022年7月号	「グラフィックトライアル2022」	
6月25日	デザインのひきだし	46号	図録「天文学と印刷」紹介、「グラフィックトライアル2022」	
7月1日	日経サイエンス	2022年7月号	「グラフィックトライアル2022」	
7月1日	コマーシャル・フォト	2022年7月号	「グラフィックトライアル2022」	
7月6日	歴史人	2022年8月号	当館収蔵品『群書治要』	
7月24日	日経デザイン	2022年8月号	「グラフィックトライアル2022」	
8月1日	コマーシャル・フォト	2022年8月号	「グラフィックトライアル2022」	
8月1日	BRUTUS	2022年8月1日号	ミュージアムショップグッズダイカットカード「天文分野之図」	
10月1日	ギャラリー	2022年10月号	「地図と印刷」	
10月1日	日本歴史	2022年10月号	「地図と印刷」	
10月24日	日経デザイン	2022年11月号	「地図と印刷」	
10月25日	芸術新潮	2022年11月号	「地図と印刷」	
11月1日	ブレーン	2022年11月号	「地図と印刷」	
11月21日	散歩の達人	2022年12月号	「地図と印刷」	
11月24日	日経デザイン	2022年12月号	「地図と印刷」	
11月25日	芸術新潮	2022年12月号	「地図と印刷」	
12月1日	日経サイエンス	2022年12月号	「地図と印刷」	
12月1日	週刊文春	2022年12月1日号	「地図と印刷」	
12月3日	東京人	2022年12月号	「地図と印刷」	
12月25日	芸術新潮	2023年1月号	「世界のブックデザイン2021-22」	
2023年	1月1日	ユリイカ	2023年1月号	当館学芸員寄稿
	1月10日	サライ	2023年2月号	当館収蔵品「駿河版銅活字」、『群書治要』、『貞観政要』
	1月25日	芸術新潮	2023年2月号	「世界のブックデザイン2021-22」
	2月1日	ブレーン	2023年2月号	「世界のブックデザイン2021-22」
	2月10日	印刷料金 2023年版		「地図と印刷」
	2月25日	デザインのひきだし	48号	「グラフィックトライアル2023」
	2月25日	芸術新潮	2023年4月号	「世界のブックデザイン2021-22」
	3月3日	MOE	2023年4月号	「世界のブックデザイン2021-22」
	3月6日	ダ・ヴィンチ	2023年3月号	「世界のブックデザイン2021-22」
	3月10日	アイデア idea	2023.4 No.401	「グラフィックトライアル2023」
	4月1日	日経サイエンス	2023年4月号	「世界のブックデザイン2021-22」

● ウェブ

サイト名	掲載内容
artscape	「グラフィックトライアル2022」、「世界のブックデザイン2021-22」
Webマガジン「AXIS」	「グラフィックトライアル2022」
アドタイ	「グラフィックトライアル2022」、「世界のブックデザイン2021-22」
MdN Design Interactive	「グラフィックトライアル2022」、「知ってるようで知らない! 本のいろいろ」、「地図と印刷」
JDN	「グラフィックトライアル2022」、「地図と印刷」、「現代日本のパッケージ2022」、「世界のブックデザイン2021-22」
Sfumart (スフマート)	「現代日本のパッケージ2022」、「地図と印刷」、「世界のブックデザイン2021-22」
Tokyo Art Beat	「グラフィックトライアル2022」、「知ってるようで知らない! 本のいろいろ」、「地図と印刷」
Tokyo Live & Exhibits.	「グラフィックトライアル2022」
fashion press (ファッションプレス)	「地図と印刷」
レッツエンジョイ東京	「グラフィックトライアル2022」、「地図と印刷」、「世界のブックデザイン2021-22」

● 国立国会図書館レファレンス協同データベースより御礼状をいただきました

国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している、調べ物のためのデータベースとして、「レファレンス協同データベース」(通称：レファ協)があります。

当館は参加館として、開館以来積み重ねたレファレンスの一部ではありますが、レファレンス協同データベースにて公開してきました。この度、2021年の実績に対し、御礼状をいただきました。

コロナ禍の折、図書館での調査が難しい世情もあったかと思いますが、皆さまの調べ物の足掛かりとなったことを嬉しく思います。

引き続き、当館ならではのレファレンスを中心に、印刷に関係する調べ物の拠り所として、さまざまなレファレンス事例の公開に努めていきます。

レファ協は多くの参加館から寄せられた、たくさんのお事例が掲載されています。皆さまもぜひ、ご活用ください。

レファレンス協同データベース：

<https://crd.ndl.go.jp/reference/>



国立国会図書館からの御礼状

● 印刷博物館オンラインショップオープン!

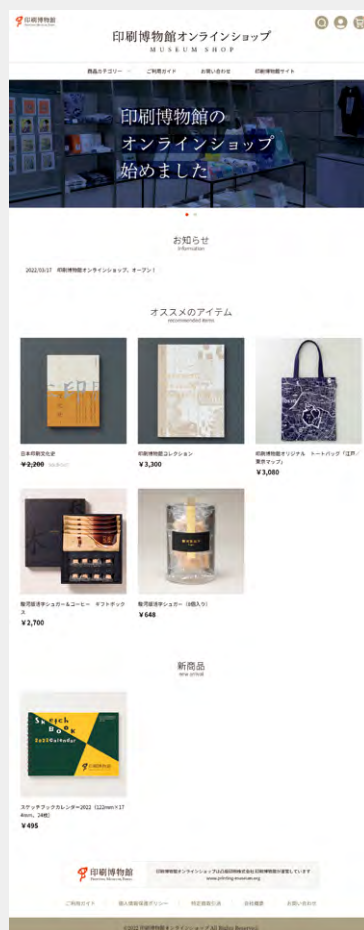
2022年5月25日、印刷博物館オンラインショップがオープンしました。

当館で発行した企画展図録や書籍のほか、Tシャツやトートバッグ、文房具などのミュージアムグッズを購入いただけます。企画展にあわせた商品なども豊富なラインアップをそろえています。また2023年1月にはB品図録福袋(印刷博物館の図録3冊がランダムに、合計6,000円以上入ったお得な商品)を販売するなど、実店舗とオンラインでこれまでにないキャンペーンを実施し、好評を博しました。

当館ミュージアムショップをいつでも、どこにいても楽しんでいただけるよう、オンラインショップにも徐々に商品を充実させ、にぎやかなショップづくりを行ってまいりますので、ぜひ皆さまのご利用をお待ちしております。

印刷博物館オンラインショップ：

<https://shop.printing-museum.org/>



開設時のトップページ

● 『活版印刷を体験しよう』が2つの賞を受賞 ● ほしおさなえ「140字小説和綴じ本体験イベント」開催報告

印刷博物館が発行した『活版印刷を体験しよう—印刷博物館の実物資料を本物と同じ大きさで実感』が2つの賞を受賞しました。

日本タイポグラフィ年鑑2023では、グラフィック部門ベストワークを受賞しました。日本タイポグラフィ年鑑は、海外でも評価の高いタイポグラフィ・デザインの記録誌で、海外からも作品を一般公募し、会員から選ばれた審査員が評価します。

日本の印刷会社で受注または印刷された優秀なカタログを顕彰するコンクールである第64回全国カタログ展では、カタログ部門で経済産業大臣賞を受賞しました。本書は活版印刷の道具や印刷機を実物大で再現し、文選・植字・印刷などの各工程を解説したA3判の大きな本です。活版印刷を「擬似体験」できる本として、多くの方にご覧いただいています。印刷博物館ミュージアムショップ及びオンラインショップで購入いただけます。



『活版印刷を体験しよう』表紙

2023年3月18日(土)と19日(日)の2日間、13:00~16:00に印刷工房において、「140字小説和綴じ本体験イベント」を開催しました。この体験は小説家のほしおさなえさんが活版印刷で140字小説集をつくるというクラウドファンディングのリターン(返礼)として催されたもの。ほしおさんとは2018年に博物館で開催した「活版印刷三日月堂」とのコラボイベント以来のご縁でお話をいただき、今回のイベントを実施する運びとなりました。この体験は、お申込みをいただいた1日8名のお客さまが140字小説2話を題材に、小説本を作成するというものです。お客さまご自身が実際に活字を拾い、組版し、印刷、そして和綴じ製本までの工程を半日で体験し、完成した和綴じ本2冊をお持ち帰りいただきました。ハードなスケジュールにもかかわらず、アンケートでは「印刷や本づくりを実際に体験でき、世界で1冊の本が完成した」と、大変喜んでいただけました。スタッフも事前準備から、当日の進行まで大変ではありましたが、充実した内容のイベントとなりました。



体験風景



完成した140字小説和綴じ本

- VRシアター演目・上映スケジュール

上映日	土日ならびに土日に続く祝日、振替休日
上映時間	1日4回 1回目 13:00 2回目 14:00 3回目 15:00 4回目 16:00

*新型コロナウイルス感染予防および拡散防止のため、回数を絞り上映。

- 「ナスカ」

南米ペルーの首都リマから南へおよそ400キロに位置するフアナ・パンパと呼ばれる大平原に描かれている「ナスカの地上絵」。本作品ではその地上絵と自然環境をCGで再現しました。上空を飛行するセスナ機から見下ろすような視点での鑑賞体験を提供しました。

会期	2022年4月2日(土)～ 9月11日(日)
上映日数	53日間
入場者数	1,485人



- 「伊能忠敬の日本図」

江戸時代、56歳から17年かけて日本全国を測量し、初めて実測による日本図を完成させた伊能忠敬。忠敬たちがつくり上げた地図は、とても精緻なものでした。どのようにしてつくり上げたのか、伊能忠敬の日本図に込められた謎をバーチャルリアリティで紹介しました。

会期	2022年9月17日(土)～ 2023年3月26日(日)
上映日数	58日間
入場者数	2,862人



- ミュージアムショップ

印刷博物館オリジナルグッズ新商品をご紹介します。

- 撥水風呂敷ながれ (96cm×96cm)

印刷博物館のサインやグラフィックデザインで使われている点と線のモジュールをデザインしました。地色はゲーテンバルクの42行聖書で使用されている赤、印刷博物館のブランドカラーです。

¥5,500 (税込)

- 企画展「地図と印刷」関連グッズ



「地図と印刷」展のロゴマークや、展示資料をデザインしたオリジナルグッズ各種

- 地図と印刷 クリアファイル

A4 | 茶・白 | 各¥330 (税込)

- YOJOTAPE 地図と印刷

手で切れて、水にも強く丈夫、弱粘着の便利な養生テープに「地図と印刷」のロゴをデザインしました

¥550 (税込)

- 測量野帳 測量する人

表紙は『渾発量地速成』から「渾発(コンパス)と鎖を以て目的を挟む図」

¥715 (税込)

- ポストカード 4種

「地図と印刷」展図録の表紙と同じ用紙を使用しました。クラフト感を活かしています。

各¥165 (税込)

- アクリルキーホルダー(カプセルトイ)

地図図式資料「測絵図譜」から8種類の地図記号をもとにしたデザインです。当館初のカプセルトイで実施しました。

各¥300 (税込)

MUSEUM INFORMATION

基本情報

アンケート報告

2022年企画展「地図と印刷」

- ・開催期間：
2022年9月17日(土)～12月11日(日)
- ・入場者数：13,172人
- ・回答者数：635人
- ・回答率：4.8%

性別	
男性	334人(52.6%)
女性	277人(43.6%)
その他・未回答	24人(3.8%)

年代	
10代	21人(3.3%)
20代	118人(18.6%)
30代	112人(17.6%)
40代	141人(22.2%)
50代	149人(23.5%)
60代	85人(13.4%)
70代	9人(1.4%)

居住地	
東京都	325人(51.2%)
神奈川県	68人(10.7%)
千葉県	66人(10.4%)
埼玉県	45人(7.1%)
茨城県	12人(1.9%)
その他道府県・海外	119人(18.7%)

職業	
会社員・団体職員・ 自営業・アルバイトなど	483人(76.1%)
専業主婦・夫	23人(3.6%)
大学生・大学院生・ 専門学校生・高専	66人(10.4%)
高校生・中学生	5人(0.8%)
無職	24人(3.8%)
その他	18人(2.8%)
未回答	16人(2.5%)

当館を知ったきっかけ*	
ポスター・チラシ	144人(22.7%)
DM	4人(0.6%)
新聞・雑誌	29人(4.6%)
テレビ・ラジオ	13人(2.0%)
Webサイト	184人(29.0%)
SNS	170人(26.8%)
友人・知人	79人(12.4%)
学校の先生、 授業や課題など	32人(5.0%)
電車広告	33人(5.2%)
駅看板・駅ポスター	24人(3.8%)
ニコニコ美術館	8人(1.3%)

展示について	
展示構成	
5 わかりやすい	304人(54.1%)
4	164人(29.2%)
3	62人(11.0%)
2	25人(4.4%)
1 わかりにくい	7人(1.2%)
5段階評価：4.3	

展示方法	
5 わかりやすい	319人(50.2%)
4	177人(27.9%)
3	87人(13.7%)
2	35人(5.5%)
1 わかりにくい	12人(1.9%)
未回答	5人(0.8%)
5段階評価：4.2	

資料点数	
ちょうどよい	476人(84.7%)
多い	50名(8.9%)
少ない	36名(6.4%)
解説内容	
ちょうどよい	473人(84.2%)
難しい	26名(4.6%)
簡単	63名(11.2%)

*複数回答可 | %は回答者全体(635人)の内、各回答別に選択した人数が何人いるかを示す割合のため、合計は100%にならない。

- ### 印象に残った展示資料
- ・「官板実測日本地図」
 - ・「改正日本輿地路程全図」
 - ・「大輿地球儀」(複製)
 - ・「三国通覧図説」
 - ・「新訂万国全図」
 - ・「新刊輿地全図」
 - ・「江戸切絵図」
 - ・「官板実測日本地図版木」
 - ・シーボルトの地図
 - ・「改正銅鑄 武蔵国全図」
 - ・「地球万国山海輿地全図説」
 - ・「日本海山潮陸図」
 - ・「東西山川蝦夷地理取調図」
 - ・「海国兵談」

- ### 企画展についてご意見
- #### 感想
- ・地図に関する展示を印刷技術の観点から見たのは初めてで、興味深かった
 - ・テーマが良く、分かりやすい構成だった。展示作品も見応えがあった
 - ・ニコ美を観てきた。とても面白かったので来館するきっかけになった。壁に展示されている地図は近くでじっくり見られたので、この細かい文字も彫っているのかと思うと驚きだった。またぜひニコ美をやってほしい!
 - ・技術的な側面と、その地図が必要とされる側面、またその地図がもたらす文化的側面をまとめて感じられる素晴らしい内容だった
 - ・地図と印刷の発展を学べる。時間をかけて、世界がお互いを認識した過程が解る良い展示
 - ・木版技術の成熟により多様な「地図」が作られ、独自の発展を遂げた近世日本。印刷物という複製メディアを通して日本・世界・都市(江戸)のイメージが形づくられ、変化していく様子がおもしろい

- #### 意見
- ・一部だけでもスマホ撮影ができるとうれしい
 - ・明治以降の地図と印刷技術の関係の展示があると良かった
 - ・地図をじっくりみたいのにケースが大きく、また触れないので見づらい
 - ・展示物のパネルで特徴を短く表した紹介文を見ると、展示物の見どころや位置づけがすぐわかり、鑑賞の助けになりとても良かった
 - ・以前に比べて量が程よくなって良いと思う。多すぎると2回見ないといけなないので

2022年常設展

- 開催期間：
2022年4月1日（金）～9月16日（金）
- 入場者数：9,247人
- 回答者数：54人
- 回答率：0.5%

性別

男性	23人(42.5%)
女性	27人(50%)
回答しない	2人(3.7%)
その他	2人(3.7%)

年代

10代	4人(7.4%)
20代	23人(42.6%)
30代	7人(13%)
40代	11人(20.4%)
50代	8人(14.8%)
60代	1人(1.8%)
70代	0人

居住地

東京都	24人(44.4%)
神奈川県	6人(11.1%)
千葉県	6人(11.1%)
埼玉県	6人(11.1%)
栃木県	1人(1.6%)
その他道府県	10人(18.5%)

職業

会社員・団体職員・ 自営業・アルバイトなど	28人(51.8%)
大学生・大学院生・ 専門学校生・高専	21人(38.8%)
高校生・中学生	2人(3.7%)
無職	2人(3.7%)

当館を知ったきっかけ*

ポスター・チラシ	1(1.8%)
テレビ・ラジオ	1(1.8%)
Webサイト	23(42.5%)
SNS	5(9.2%)
友人・知人	9(16.6%)
学校の先生、 授業や課題など	7(13.2%)
来て初めて知った	3(5.7%)
ぐるっとパス	3(5.5%)
その他	11(17.1%)

展示について*

印象に残ったコーナー

印刷の日本史	38(70.3%)
印刷×技術	28(51.8%)
プロローグ	27(50.0%)
印刷の世界史	14(25.0%)
印刷工房の 欧文書体アーカイブ	13(24.0%)
印刷工房	8(14.8%)

「印刷の日本史」で印象に残った時代

古代・中世	21(38.8%)
近世	32(59.2%)
近代	21(38.8%)
現代	13(24.0%)

そのほかに印象に残った展示

- ・活字パズル
- ・浮世絵の順序刷り
- ・グーテンベルクの印刷機(想定復元)
- ・眼鏡絵
- ・戦時中のグラフ雑誌
- ・プリントゴッコ
- ・カレンダースタンプ

*複数回答可 | %は回答者全体(54人)の内、各回答別に選択した人数が何人いるかを示す割合のため、合計は100%にならない。

展示についてのご意見

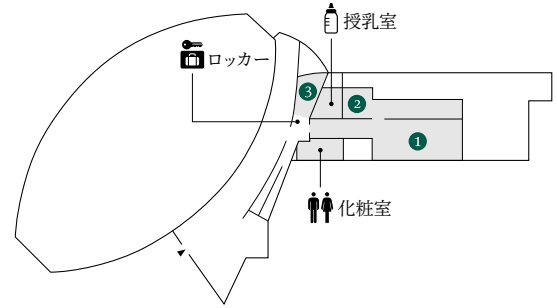
- ### 感想
- ・期待以上だった。またゆっくり来たい
 - ・印刷の歴史について知ることができて興味深かった
 - ・プロローグの粘土細工が、小学一年生が見ても楽しそうであった
 - ・江戸時代初期に活版印刷が流入したが、あまり定着しなかった理由の解説をもう少し詳しく紹介して欲しい。解説動画があれば嬉しい
 - ・オフセット印刷や、木版印刷の方法が細かく展示されていて良かった。ただ、コロタイプ印刷についても知りたかったので、もっと展示があると嬉しい。活版印刷体験がとても楽しかった。次回はひらがなで短文をつくってみたい
 - ・コロナ禍でも、安心して見ることが出来ました。ここなら知り合いにもオススメできる
 - ・自分が思っている以上に見応えがあって楽しかった。昔から印刷技術があるということを知らなかったのが興味深かった
 - ・新しく洗練された展示。時間があれば、もっとゆっくり見たかった
 - ・実際に物もあり、内容が難しくても理解しやすかった
 - ・ホームページのアクセス欄に、博物館への入り口の説明がなく、正門前の警備員さんに伺って入場してしまった
 - ・印刷の日本史コーナーと、印刷の世界史コーナーが近接していることで日本と諸外国の違いがわかりやすかった。特に、兵隊を募集する旨を記載したポスターの、日米でのデザインの違いに興味深かった

利用案内

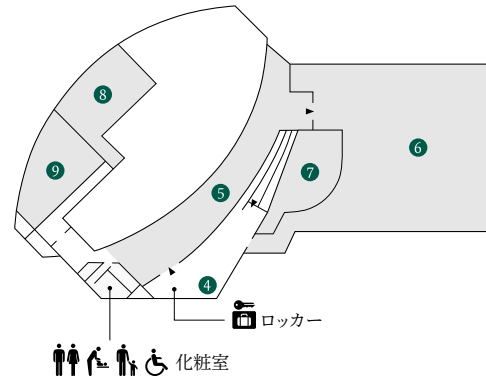
- 所在地**
 東京都文京区水道1丁目3番3号
 トップラン小石川本社ビル 〒112-8531
 電話 03-5840-2300(代) FAX 03-5840-1567
- 開館時間**
 10時～18時(入場は17時30分まで)
- 休館日**
 毎週月曜日(ただし祝日/振替休日の場合はその翌日)
 年末年始・展示替え期間
- 入場料**
 一般：400円 | 学生：200円 | 高校生：100円
 中学生以下および70歳以上の方：無料
- 団体割引(20名以上)**
 一般：350円 | 学生：150円 | 高校生：50円
 *企画展期間中は入場料が変わります。
 *5月5日(こどもの日)、11月3日(文化の日)は入場料が無料となります。
 *障がい者手帳等をお持ちの方およびその付き添いの方は無料となります。
- 交通のご案内**
 - 江戸川橋駅**
 東京メトロ有楽町線(4番出口)より徒歩約8分
 - 飯田橋駅**
 JR総武線(東口)、東京メトロ有楽町線、
 東京メトロ東西線、東京メトロ南北線、
 都営地下鉄大江戸線(B1出口)より徒歩約13分
 - 後楽園駅**
 東京メトロ丸ノ内線、東京メトロ南北線(1番出口)より
 徒歩約10分
 - 都営バス [上69]**
 上野公園～春日駅前～小滝橋車庫 / 「大曲」「東五軒町」
 下車徒歩約3分
 - 都営バス [飯64]**
 九段下～飯田橋駅前～小滝橋車庫 / 「大曲」「東五軒町」
 下車徒歩約3分
 - 文京区コミュニティバス [B-ぐる]**
 目白台・小日向ルート「トップランホール 印刷博物館」
 下車徒歩約3分
 *トップラン小石川本社ビル地下駐車場がご利用になれます(有料)。

印刷博物館施設一覧

1F



B1F



1F

- ① P&Pギャラリー
- ② ライブラリー
- ③ ミュージアムショップ

B1F

- ④ チケットカウンター
- ⑤ プロログ
- ⑥ 展示室
- ⑦ 印刷工房
- ⑧ VRシアター
- ⑨ 研修室

ビル内施設

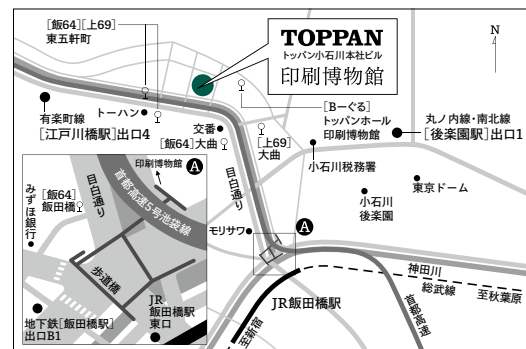
1F

- ・トップランホール

2F

- ・レストラン小石川テラス
- ・ハートフルカフェ

アクセスマップ



関連施設

● VRシアター

VRシアターでは、コンピュータで作られた三次元映像の中を、コントローラーを使用して鑑賞者が自由に移動しながら、あたかも実際にその空間にいるかのような臨場感と没入感を体験できます。ハイエンドPCによってリアルタイムに生成されたCG(コンピュータ・グラフィックス)を、高精細プロジェクタ3台を通じて、半径8メートル、水平方向の視野角120度、高さ4メートルというデジタルアーカイブ分野では世界最大規模のカーブスクリーンに再現しています。

印刷の長い歴史の中で培われた複製技術と最新のデジタル化技術の融合によって作り出された、最先端の印刷の姿です。



VRシアター

● 研修室

当館見学のオリエンテーションや映像ソフトの上映などを行うほか、企画展に関連した、当館主催の講演会や各種ワークショップ、その他の学習活動に使用しています。



研修室

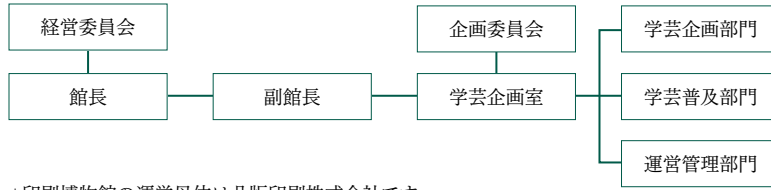
● ミュージアムショップ

印刷に関する書籍や企画展の図録をはじめ、収蔵資料をモチーフにしたポストカードやTシャツなど、印刷の歴史にゆかりのあるグッズを中心に、当館ならではのアイテムを取り揃えています。



ミュージアムショップ

● 組織



*印刷博物館の運営母体は凸版印刷株式会社です。

● トップラン小石川本社ビル概要

● 敷地概要

敷地面積 | 12,541m²
地域地区 | 準工業地域 準防火地域第3種高度地区

● 建物概要

建築面積 | 5,028m²
延面積 | 54,219m²
建物高さ | 高層棟：96.0m 低層棟：17.7m
階数 | 高層棟：地上21階 地下3階 塔屋
低層棟：地上3階 地下3階

建物構造 | 高層棟：地上部分鉄骨造、
地下部分鉄骨鉄筋コンクリート造
低層棟：地上部分、地下部分鉄骨鉄筋コンクリート造
外装仕上げ | 高層棟：カーテンウォール（ガラス・アルミパネル）
低層棟石張りほか

● 工事工期

1997（平成9）年10月22日～2000（平成12）年3月31日 30カ月
竣工式2000年4月7日

● 設計・施工

設計・監理 | 株式会社岡田新一設計事務所
施工 | 安藤建設・鹿島・東急建設共同企業体

● 建築概要（トップラン小石川本社ビル内低層棟1階、地下1階）

● 総床面積

4,149m²

● 展示室仕様

● 規模

面積 | P&Pギャラリー：445m²／プロローグ：385m²／
展示室：1,387m²
天井高 | P&Pギャラリー：3,500mm／プロローグ：5,800mm／
展示室：4,200mm

● 仕上

床 | フローリング貼 ナラ板目ウレタンワックス塗装
壁 | EP塗装（クロス下地）
天井 | コンクリート部 VP塗装、タケダシート
鉄骨部 | EP塗装
ボード部 | EP塗装

● 空調設備

24時間空調設備／温度：22±2℃／湿度：55±5%

● 消火設備

P&Pギャラリー | 予作動式スプリンクラー消火設備
プロローグ | 予作動式スプリンクラー消火設備
展示室 | 窒素ガス消火設備

● 収蔵庫仕様

● 規模

面積 | 228.5m²

● 仕上

床 | プナフローリング 無塗装
壁 | 日本杉（目地 スプルース、木質系調湿材使用）
天井 | 日本杉

● 空調設備

24時間空調設備／温度：22±0.3℃／湿度：55±5%

● 消火設備

窒素ガス消火設備

● ライブラリー仕様

● 規模

面積 | 総面積：173.6m²／書庫：97m²／閲覧コーナー：20m²（6席）

● 空調設備

24時間空調設備／温度：22±3℃／湿度：55±5%

● 消火設備

書庫 | 窒素ガス消火設備
その他 | 予作動式スプリンクラー消火設備

● 警備

全館24時間警備体制／監視用TVカメラ設置／センサーによるセキュリティシステム

設立趣旨・特徴

● 設立趣旨

Aims of the Museum

社会、文化の発展に大きく貢献してきた印刷の役割と意義を、広く社会に公開する。

To exhibit and explain to society at large the important role and significance of printing in the development of society and culture.

未来のコミュニケーション・メディアとしての印刷の拡がり
と、可能性を提案していく。

To demonstrate the potential of printing in the evolving media environment of the future and explore how it should contribute to the emerging communication society.

従来の印刷表現技術を再認識し、その重要性を次世代に
伝える。

To preserve the technology of printing expression that has been indispensable to the advance of human civilization in the past and carry on that tradition into the future, based on the results of research at the Museum.

研究、教育機能を充実させ、これまでの技術中心の視点に
加え、文化的側面からのアプローチも行い、「印刷文化学」
を確立させる。

To contribute to the establishment of the field of Printing Culture Studies by developing the Museum's research and educational functions and gathering relevant information and knowledge from a broad array of sources.

● 特徴

Emphasis of Activities

印刷をコミュニケーション・メディアおよび表現芸術ととら
え、その普遍的な価値と可能性を追究する。

The Museum will explore the potential and universal value of printing, regarding it both as a communicative medium and an expressive art.

広く世界の印刷を視野に入れながらも、日本、アジアの印
刷に重点をおいて展開する。

While maintaining a broad outlook on printing culture from various parts of the world, the Museum will develop its programs with particular emphasis on Japanese and Asian printing cultures.

展示は常設展を中心に展開する。従来の博物館とは違い、
常に変化する新しい博物館活動を展開する。

Exhibitions will be planned with a focus on the general exhibition. Unlike many conventional museums, the Museum's program of activities will be constantly changing and renewed.

マルチメディアを活用して、館内外のネットワークとデジタル
アーカイブの構築、デジタル表現などの対応を図る。

The Museum will disseminate printing-related information by establishing an intranet and extranet and digital archive of multimedia content.

企業博物館ながら、位置づけは公共文化施設として幅広い
人々を対象とする。

The Museum will be designed for use by the general public.

印刷博物館アニュアルレポート2023

2023年7月

発行：凸版印刷株式会社 印刷博物館

<https://www.printing-museum.org/>

印刷文化學

PRINTING CULTURE STUDIES

〒112-8531

東京都文京区水道1丁目3番3号 トップラン小石川本社ビル

企画：印刷博物館学芸企画室

デザイン：株式会社中野デザイン事務所

印刷：凸版印刷株式会社

©2023 Printing Museum, Tokyo. All rights reserved. Printed in Japan

印刷博物館へのお問い合わせ：03-5840-2300 (代)

